甲　糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全量ノ百分ノ六十ヲ超エサルモノ……百斤ニ付一圓

乙　其ノ他ノモノ……百斤ニ付二圓五十錢

3 糖　水……百斤ニ付七圓三十五錢

○納　期

製造場又ハ保稅地域ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルトキ

○明治三十四年三月法律第十號ヲ以テ砂糖消費稅法ヲ制定シ同年十月一日ヨリ之ヲ施行ス其ノ要領次ノ如シ

1. 課稅ノ時期　內地ニ於テ消費スル目的ヲ以テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造場稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ルトキ課稅ス

2. 稅率　第一種砂糖色相和蘭標本第八號未滿ノ砂糖及糖蜜百斤ニ付一圓、第二種同標本第八號以上第十五號未滿ノ砂糖同一圓六十錢、第三種同標本第十五號以上第二十號以下ノ砂糖及糖水同二圓二十錢、第四種同標本第二十號ヲ超ユル砂糖及氷砂糖同二圓八十錢

3. 徵收豫豫　內地消費ノ目的ヲ以テ引取リタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ政府ニ於テ相當ト認ムル擔保ヲ提供スルトキハ六箇月以內消費稅ノ徵收ヲ豫豫ス

內地消費ノ目的ニ非スシテ引取ラルル砂糖、糖蜜又ハ糖水モ消費稅ニ相當スル擔保ヲ提供スルコトヲ要シ引取後六箇月以內ニ外國輸出ノ證明ナキモノハ內地消費ニ供セラレタルモノト看做シ擔保ヲ以テ消費稅ニ充ツルモノトス

4. 消費稅ノ戾稅及免除　外國輸出ノ目的ヲ以テ引取リタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ引取リタル後六箇月以內ニ外國輸出ノ證明書ヲ提出シタルモノハ消費稅ヲ免除シ又政府ノ承認ヲ受ケ納稅濟ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ原料トシ砂糖、糖水又ハ酒精ヲ製造シタルトキハ其ノ請求ニ依リ其ノ消費稅ニ相當スル金額ヲ下付ス

5. 其ノ他收稅官吏ノ檢查處分範圍處罰等ヲ規定ス

○明治三十四年八月勅令第百六十九號砂糖消費稅法施行規則ヲ以テ金庫所在地外ニ在ル製造場ヨリ千斤未滿ノ第一種若ハ第二種砂糖又ハ糖蜜ヲ引取ル場合ニ限リ查定書ニ收入印紙ヲ貼付シテ納付スルコトヲ得ルコトトス

○明治三十五年三月法律第二十一號ヲ以テ砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料ニ供スル砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料ニ供スル砂糖、糖蜜ニ付テハ從來戾稅ヲ爲ス規定ナリシヲ改正シ初ヨリ消費稅ヲ課セサルコトトシ同年四月一日ヨリ施行ス

○明治三十五年三月法律第三十三號ヲ以テ輸入原料砂糖戾稅法ヲ制定シ砂糖色相和蘭標本第十四號以下ノ輸入砂糖ヲ原料トシテ精製糖及氷砂糖ヲ製造スル者ニ對シテハ其ノ輸入後一箇年ヲ經過スルコトヲ得セサルコトトシ同年十月一日ヨリ施行ス

○明治三十七年四月法律第三號非常特別稅法ヲ以テ第一種百斤ニ付一圓、第二種同三圓、第三種同三圓三十錢、第四種同三圓七十錢ノ增徵ヲ課ス但シ十月以降ハ第一種ハ增徵ナク第二種ハ第一種ノ增徵ヲ課ス

○明治三十八年一月法律第一號ヲ以テ非常特別稅法中改正シ增徵率ヲ第一種百斤ニ付一圓、第二種同二圓八十錢、第三種同四圓三十錢、第四種同四圓四十七錢ト改ム

○明治三十八年二月法律第二十六號ヲ以テ原料糖トシテ引取リタル砂糖及糖蜜ニシテ六箇月以內ニ原料ニ供セサル場合ト雖モ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ依リ亡失シタル場合ハ政府ノ承認ヲ受ケ免除スルコトニ改正シ同年三月十六日ヨリ施行ス

○明治三十八年二月法律第二十七號ヲ以テ輸入原料砂糖戾稅法中輸入原料糖ノ戾稅ヲ原料糖ヨリ製造ノ際生成シタル第十四號以下ノ砂糖ヲ控除シタル數量ニ對シ納付シタル輸入稅ニ相當スル金額ヲ下付スルコトニ改正シ同年三月十六日ヨリ施行ス

○明治四十年三月法律第二十六號ヲ以テ輸入原料砂糖戾稅法ノ輸入原料糖ノ戾稅ヲ第十五號未滿ト改メ其ノ戾稅金額ヲ下ノ通改正シ同年四月一日ヨリ施行ス

1. 製品ヲ內地消費ニ供スルトキ

イ、第八號未滿ノモノヲ原料トシタルトキハ百斤ニ付一圓四十五錢

ロ、第十五號未滿同百斤ニ付一圓九十五錢

2. 製品ヲ外國ニ輸出スルトキ

イ、第八號未滿ノモノヲ原料トシタルトキハ百斤ニ付一圓六十五錢

ロ、第十五號未滿同百斤ニ付二圓二十五錢

○明治四十一年二月法律第一號ヲ以テ稅率ヲ第一種百斤ニ付三圓、第二種同五圓五十錢、第三種同八圓五十錢、第四種同十圓ニ改メ(同年二月二十二日ヨリ施行)非常特別稅法中砂糖消費稅ニ關スル規定ヲ廢止ス

○明治四十一年三月法律第二十七號ヲ以テ煉乳原料砂糖戾稅法ヲ制定シ政府ノ承認ヲ得テ砂糖色相和蘭標本第十五號以上ノ砂糖ヲ煉乳製造ノ原料ニ使用シタル者ハ消費稅ニ相當スル金額ヲ下付ス但シ使用後一年以內ニ請求スルコトヲ要スルコトトシ同年四月一日ヨリ施行ス

○明治四十二年三月法律第十二號ヲ以テ輸入原料砂糖戾稅法中輸入原料砂糖戾稅法ノ效力ハ明治四十二年三月三十一日迄ナリシヲ之ヲ明治四十四年七月十六日迄ニ改ム(明治四十四年七月十七日以降ハ關稅定率法ニ之ヲ規定シ其ノ拂戾金ノ率ハ同年七月勅令第百九十七號ヲ以テ從來ノ規定ニ改正ヲ加ヘテ之ヲ定ム)

○明治四十二年三月法律第十八號ヲ以テ輸出菓子糖果原料砂糖戾稅法ヲ制定シ消費稅ヲ課稅セラレタル砂糖ヲ用ヒ製造シタル菓子又ハ糖果ヲ外國へ輸出シタル者ハ其ノ砂糖ニ對シ消費稅ニ相當スル金額以下ノ金額ヲ下付ス但シ輸出後一年以內ニ請求スルヲ要スルコトトシ同年三月勅令第六十三號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行ス

○明治四十二年三月勅令第六十四號ヲ以テ輸出菓子糖果原料砂糖戾稅法ニ依ル戾稅割合ハ菓子又ハ糖果中ニ含有スル甘蔗糖百斤ニ付五圓ト定ム

○明治四十二年四月法律第二十號ヲ以テ第一種ノ稅率ヲ甲樽入黑糖百斤ニ付二圓、乙其ノ他ノモノ同三圓ト改メ同年四月二十一日ヨリ施行ス

○明治四十三年四月法律第三十三號ヲ以テ稅率ヲ砂糖第一種砂糖色相和蘭標本第十一號未滿ノ砂糖甲樽入黑糖百斤ニ付二圓、乙其ノ他ノモノ同三圓、第二種同上第十五號未滿ノ砂糖同五圓、第三種同上第十八號未滿ノ砂糖同七圓、第四種同上第二十一號未滿ノ砂糖同九圓、第六種氷砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノ同十圓、糖蜜、第一種氷砂糖ヲ分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量百斤ニ付九圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金額、第二種其ノ他ノ糖蜜甲百斤ニ付二圓、乙

其ノ他ノモノ同上三圓、糖水ヲ百斤ニ付八圓ト改正シ同年四月一日ヨリ施行ス

○明治四十四年三月法律第四十號ヲ以テ煉乳原料砂糖戻稅法中改正煉乳原料砂糖戻稅法ノ效力ハ明治四十四年七月十六日迄ナリシカ此ノ條項ヲ廢シテ之カ效力ヲ無期限トス

○明治四十四年四月法律第五十七號ヲ以テ第一種ノ稅率ヲ甲樽入黑糖百斤ニ付二圓、乙樽入白下糖百斤ニ付三圓ト改正シ同年四月一日ヨリ施行ス

○大正五年四月法律第三十八號ヲ以テ本法中從來外國輸出ノ砂糖ニ對シ稅額相當ノ擔保提供ノ强行規定ナリシヲ之ヲ任意規定ニ改メ又糖蜜ハ其ノ用途ノ如何ニ拘ラス課稅スルヲ食用ニ供セサル糖蜜ニハ課稅セサルコトニ尙課稅濟ノ砂糖ヲ以テ水糖ヲ製造スルトキハ課稅セサルコト其ノ他ニ改正ヲ加ヘ(但シ稅率ニハ異動ナシ)公布ノ日ヨリ施行ス

○昭和二年三月法律第九號ヲ以テ稅率ヲ現行ノ通改正シ同年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

其ノ要領次ノ如シ

庶民階級ノ需要品タル第一種糖中黑糖一圓一錢ヲ輕減シ第二種糖、第三種糖ノ區分ヲ廢シ之ニ從來ノ第二種糖ノ稅率ヲ課シ從來ノ第四種糖、第五種糖及糖蜜、糖水糖ニ對シテモ減稅ヲ爲シタリ

織物消費稅

(明治三十三年三月法律第七號織物消費稅法)

○稅　率……織物價格百分ノ十

○納　期……製造場稅關又ハ保稅倉庫ヨリ織物ヲ引取ルトキ

○明治三十七年四月法律第三號非常特別稅法中ニ於テ新ニ毛織物消費稅ヲ創設シ同年四月一日ヨリ施行ス

稅率、毛織物(毛ノ分量ニ拘ラス總テ毛製、毛絹製又毛綿製ノ織物)價格百分ノ十五

納期、製造場稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ルトキ

外國ニ輸出スル毛織物及製造者ノ自用ニ供スル毛織物ニ付テハ消費稅ヲ免除ス

○明治三十八年一月法律第一號ヲ以テ非常特別稅法ニ改正ヲ加ヘ毛織物以外ノ織物ニモ消費稅ヲ課スルコトトシ織物消費稅稅率ヲ毛織物價格百分ノ十五其ノ他ノ織物價格百分ノ十トシ毛織物ニ付テハ明治三十八年一月一日又毛織物以外ノ織物ニ付テハ明治三十八年二月一日ヨリ施行ス

○明治三十九年三月法律第七號ヲ以テ非常特別稅法中「平和克復後ニ至リタルトキハ其ノ翌年末日限リ本法ヲ廢止ス」トノ本稅賦課期限ノ規定ヲ削除シテ之ヲ無期限ト爲シタリ

○明治四十三年三月法律第七號ヲ以テ織物消費稅法ヲ制定シ同四十三年四月一日ヨリ施行シ同時ニ非常特別稅法中織物消費稅ニ關スル規定ヲ廢止ス

其ノ要領次ノ如シ

非常特別稅ヲ廢止シ獨立ノ稅法ヲ創設シ織物ニハ總テ同一ノ稅率ヲ適用シテ課稅シ其ノ取扱ヲ統一ス

1. 稅率、織物價格ノ百分ノ十

2. 納期及納稅者、製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ルトキ引取人之ヲ納付ス

製造者ニ於テ織物ニ其ノ價格ヲ表記シ印紙ヲ貼付シテ納付スルコトヲ得

3. 消費稅免除、外國ニ輸出スル織物又ハ製品トナシテ輸出セントスル織物及製造者カ自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル爲自ラ製造シタル織物ニハ織物消費稅ヲ免除ス

4. 交付金、納稅濟ノ織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ消費稅ニ相當スル金額ヲ交付ス

5. 徵收猶豫、消費稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ三箇月以內消費稅ノ徵收ヲ猶豫ス

6. 納稅前ノ移出承認

イ、藏置ノ爲引取ルトキ

ロ、加工ノ爲引取ルトキ

ハ、一定ノ場所ニ於テ納稅スル爲引取ルトキ

7. 罰金最低額ノ引上、引取、引渡犯等ノ最低罰金額十圓ヲ二十圓ニ引上ク

○大正八年三月法律第三十三號ヲ以テ織物組合ニシテ政府ノ織物查定事務ニ付查定場ヲ提供シ徵稅上ノ補助ヲ爲ス組合ニ對シ其ノ費用ヲ補償スル意味ニ於テ相當ノ金額ヲ交付スル必要アリ本法中ヲ改正シ織物ノ製造者又ハ販賣者ノ組織スル組合ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ取扱ヒタル織物中消費稅ヲ賦課シタル織物ノ價格ノ千分ノ一以內ノ金額ヲ交付スルコトヲ得ルコトトシ同年四月一日ヨリ施行ス

○大正十一年三月法律第十七號ヲ以テ織物組合ニ對スル交付金ノ算定標準ハ之ヲ稅法ニ規定シ各組合ノ取扱ニ係ル織物課稅價格ニ依ルコトト爲シアルモ逐年諸物價ノ昂騰ニ因リ組合經費ノ實額ニ對シ一般ニ不足ヲ告クルノ狀況ニ在リシヲ以テ之カ標準ニ關スル規定ヲ總テ命令ニ委任シ適切ニ規定セシムルノ必要アリ本法中第二十二條第二項ヲ改正シ同時ニ勅令第五十七號ヲ以テ織物消費稅法施行規則第二十九條第二項ヲ改メ織物ノ製造者又ハ販賣者ノ組織スル組合ニ對シテ其ノ取扱ヒタル織物中消費稅ヲ賦課シタル織物ノ課稅價額ノ千分ノ一ニ相當スル金額及其ノ點數每五百點ニ付一圓ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ノ交付金ヲ交付スルコトヲ得トシ同年四月一日ヨリ施行ス

○大正十五年三月法律第二十二號ヲ以テ本法中ヲ改正シ同年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

其ノ要領下ノ如シ

1. 織物中綿織物ニ對シテハ免稅トス

2. 新ニ綿織物ノ定義ヲ加フ

本法ニ於テ綿織物ト稱スルハ全重量百分中九十五以上ノ綿ヲ以テ組成シ絹、人造絹、金屬絲、金屬線、金屬箔、漆絲又ハ漆箔ヲ交ヘサル織物ヲ謂フ

絹紡、紬絲、芭蕉絲其ノ他命令ヲ以テ定ムル原料ヲ以テ組成スル織物ニシテ命令ノ定ムルモノハ之ヲ綿織物ト看做ス

印紙稅

(明治三十二年三月法律第五十四號印紙稅法)

○稅　率

下ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ、帳簿ハ一冊一年以内ノ附込ニ對シ

1 不動產、鐵道財團、軌道財團又ハ船舶ノ所有權移轉ニ關スル證書……
2 消費貸借ニ關スル證書……
3 請負ニ關スル證書……
4 運送ニ關スル證書……
5 傭船契約書……

記載金高五十圓以下ノモノ二錢
同　百圓以下ノモノ三錢
同　五百圓以下ノモノ十錢
同　千圓以下ノモノ二十錢
同　一萬圓以下ノモノ五十錢
同　一萬圓ヲ超ユルモノ一圓
記載金高ナキモノ　三錢

6 委任狀……二錢

7 約束手形 8 爲替手形 9 銀行預金證書 10 產業組合又ハ產業組合聯合會ノ發スル貯金證書 11 產業組合聯合會、重要輸出品工業組合、重要輸出品工業組合聯合會又ハ輸出組合ノ發スル出資證券 12 船荷證券 13 運送貨物引換證 14 倉庫證券 15 保險證券 16 株券 17 債券 18 相互保險會社ノ發スル基金證券 19 株式申込證 20 社債申込證 21 地上權、永小作權又ハ地役權ニ關スル證書 22 使用貸借、賃貸借、雇傭、寄託又ハ定期金ニ關スル證書 23 信託行爲ニ關スル證書 24 無盡ニ關スル證書 25 定款又ハ組合契約書 26 權利ノ變更ニ關スル證書 27 追認又ハ承認ニ關スル證書 28 物品切手 29 受取書 30 質權、抵當權ニ關スル證書 31 前各號以外ノ證書 32 預金通帳……三　錢

33 預金通帳以外ノ通帳……五　錢

34 判取帳……五十錢

證書ニ金高記載ナキモ證書面ニ標記シアル價額ノ單位其ノ他ノ記載事項ニ依リ其ノ金額ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其ノ總金額ヲ以テ記載金高ト看做ス

印紙ハ證書、帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス但シ印紙稅額ニ相當スル現金ヲ政府ニ納付シテ稅印押捺ヲ受ケ印紙貼付ニ代フルコトヲ得

○明治六年二月第五十六號布告ヲ以テ受取證文印紙貼用心得方規則ヲ制定ス

其ノ要領次ノ如シ

凡ソ人民相互ニ諸證文手形書附類ヲ以テ後日ノ證據ト爲スヘキモノニ就テハ其書面ニ印紙ヲ貼用シテ取引ヲ爲スヘク明治六年六月一日以後ノ證書ニ右印紙貼用ナキ分ハ出訴スルモ取上ケサル旨ヲ規定ス

稅率、第一類、金高ニ拘ラス總テ一樣ノ印紙ヲ貼用スヘキモノ十圓以上一錢、第二類、金高ニ應シテ次第ニ印紙ヲ增貼スヘキモノ十圓以上ハ一錢トシ十圓ヲ加フル毎ニ一錢ヲ增ス

書面金高十圓ニ滿タサル分ハ印紙ノ貼付ヲ要セス受取書ヲ除クノ外都テ界紙ヲ用フルコト

○明治六年五月第百五十五號布告ヲ以テ贋造再貼用ノ制裁方法及施行上ノ細則稅印押捺等ノ規定ヲ爲シ印紙貼用額稅率ヲ改メ同年六月一日ヨリ施行ス

○明治六年五月第百九十號布告ヲ以テ證書取替制ヲ定メ人民相互金子ヲ授與スル場合其ノ他諸取引竝賣買共十圓以上ノモノハ必ス證書又ハ請取書ヲ取替スヘキコトトス

○明治六年六月第二百二十二號布告ヲ以テ犯則者告發奬勵ノ意味ヨリ犯則訴人ニ對シ過料罰金高ノ半額ヲ賞與トシテ下附スヘキ旨ヲ規定ス

○明治六年七月第二百六十二號布告ヲ以テ受取諸證文印紙貼用心得方規則ヲ改正シ通帳及判取帳ノ附込期間ヲ一年限トシ尙金高記載ナキ物品ヲ以テ記入スル荷物判取帳ノ類ニシテ附込金高ノ計算不能ナルモノノ印稅ヲ總テ五錢トセル外界紙僞造ニ對スル處罰規定ヲ設ク

○明治六年八月第三百十號布告ヲ以テ證券印紙ノ形狀二十五錢、五十錢、一圓ノ三種ハ其形大ニ過キ貼用上不便ナルヲ以テ之カ改正ヲ爲シ明治七年九月一日ヨリ施行ス

○明治七年二月第十四號布告ヲ以テ受取諸證文印紙貼用心得方規則ヲ改正シ貼用印紙ニ消印セサルカ又ハ相當セサル印紙ヲ貼用セル諸證文ヲ交付シタル者ニ對スル規定ヲ爲ス

○明治七年三月第二十六號布告ヲ以テ第十四號布告中ノ「相當セサル」ノ下ニ「不足」ノ字句ヲ加ヘ其ノ意義ヲ明確ナラシム

○明治七年五月第五十六號布告ヲ以テ受取諸證文印紙貼用心得方規則ヲ改正シ帳簿附込期限一箇年制ヲ改メテ附込金高滿了迄トシ尙金高無限ノ證印ヲ受ケタルモノハ全冊使用シ得ルコトトス

○明治七年七月第八十一號布告ヲ以テ從來ノ規則ヲ廢シ證券印稅規則ヲ制定ス諸證書、諸帳簿共三類ニ分チ各其ノ種類ニヨリ又ハ金額ニ應シ稅率ヲ定メ印紙ヲ貼用セシメ且ツ證書帳簿界紙ヲ賣下ク

○明治七年十二月第百三十六號竝第百三十七號布告同八年七月第百二十一號布告同年八月第百二十六號布告及同十二年八月第三十一號布告ヲ以テ證券印稅規則中ニ改正ヲ加フ

○明治十七年五月第十一號布告ヲ以テ證券印稅規則ヲ改正シ舊來ノ證券界紙ヲ全廢シ稅印押捺ヲ許容スルモノ以外ハ凡テ印紙貼用ノ制ヲ採リ稅率ハ二類ニ分チ第一類ニ屬スルモノハ定額稅、第二類ハ階級稅ト爲シ其種類及區分ヲ簡明ナラシメ同年七月一日ヨリ施行ス(第一類金高ノ有無多寡ニ拘ハラサルモノ引出小切手、委任狀各五厘。金高記載ナキ約定證文、遺金物證文、跡式讓證文、讓與證文、期限ヲ定メサル預リ金證文、耕地小作證文、雇人請合狀、金高記載ナキ諸物品預リ(借用)證文、地所家屋預リ證文、諸物品切手、借地(家)證文、賣買仕切書、保險證文、諸會社株券、送金手形通帳各一錢。判取帳二十錢。結社約定書一錢。營業ニ關スル送狀、請取書各一錢、但シ通帳ト爲セハ一年一冊一錢。第二類金高ノ多寡ニ隨フモノ金錢借用證文、地所家屋賣買證文、金高記載アル諸物品預リ(借用)證文、諸物品賣買證文、金錢定期預リ證文、金高記載アル諸般ノ契約證書金高一圓以上二十圓

未滿印紙稅一錢,同五十圓未滿二錢,百圓未滿四錢,百五十圓未滿六錢,二百圓未滿八錢,三百圓未滿十一錢,四百圓未滿十四錢,六百圓未滿二十錢,八百圓未滿二十六錢,千百圓未滿三十二錢,千四百圓未滿三十八錢,千七百圓未滿四十四錢,二千圓未滿五十錢,二千五百圓未滿六十錢,三千圓未滿七十錢,三千五百圓未滿八十錢,四千圓未滿九十錢,四千圓以上一圓,但シ之ヲ通帳ト爲セハ百圓未滿四錢,百圓以上ハ諸證書稅率ニ據ル。金錢當座預リ證文,質物預リ書(小札)一圓以上二十圓未滿一錢,二十圓以上二錢,但シ之ヲ通帳ト爲セハ百圓未滿二錢,百圓以上四錢,爲替,荷爲替,約束手形五十圓未滿一錢,百圓未滿二錢,二百圓未滿四錢,五百圓未滿八錢,千圓未滿十五錢,二千圓未滿二十五錢,二千圓以上五十錢)

○明治二十三年四月法律第三十號ヲ以テ證券印稅規則中ヲ改正シ小切手手形類ノ裏面ニ記載シタル受取書ニハ印紙貼用ヲ要セサル旨ヲ規定ス

○明治三十一年七月勅令第百四十號ヲ以テ印紙制度ヲ改正シ新ニ收入印紙ヲ設ケラレタル結果爾後證券印紙稅モ收入印紙ヲ以テ徵收セラルルコトトナレリ然レトモ當分ノ內ハ仍舊ニ依リ證券印紙ヲ代用シ得ルコトトセリ

○明治三十二年三月法律第五十四號ヲ以テ印紙稅法ヲ制定シ證券印稅規則ヲ廢止シ同年四月一日ヨリ施行ス

其ノ要領次ノ如シ

財產權ノ得喪ヲ證明スヘキ證書帳簿ハ凡テ印紙稅ヲ納ムヘキコトニシ稅率ヲ單純ナラシメ小切手ニ免稅シ各證券ニ稅印押捺ノ途ヲ拓ク等專ラ一般ノ便ヲ圖ルヲ旨トセリ

1. 稅　率

(1) 證書ハ一通每ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限リ記載金高一萬分ノ五ノ割合ヲ以テ印紙貼用但シ其ノ稅額五十圓以上ナルトキハ五十圓ニ止メ一錢未滿トナリ又ハ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキハ一錢ニ切上ク

(2) 爲替手形,約束手形ハ一通每ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限リ金高二千圓未滿二錢同二千圓以上十錢

(3) 次ノ證書帳簿ニ關シテハ證書一通每ニ帳簿ハ一年一冊ノ附込ニ對シ委任狀一錢銀行預金證書,船荷證券,運送貨物引換證,倉荷預證券,保險證券,株券,債券,株式申込證,地上權,永小作權,地役權ニ關スル證書,使用貸借,賃貸借,雇傭寄託,定期金ニ關スル契約證書,定款及組合契約書,權利ノ變更ニ關スル證書,追認承認ニ關スル證書,物品切手,賣買仕切書,送狀,受取書,金高記入ナキ證書,擔保品差入證書,擔保品預證書,通帳各二錢,判取帳二十錢

2. 印紙稅ヲ納ムルヲ要セサルモノ

(1) 官廳又ハ公署ヨリ發スル證書,帳簿

(2) 官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書,帳簿

(3) 國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書

(4) 慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル金圓物件ノ寄附ニ關シ人民ヨリ官廳若ハ公署ニ提出スル證書

(5) 俸給,給料,歲費,手當金,賞與金,年金,恩給,扶助料及救恤金ノ受取書

(6) 小切手

(7) 金高五圓未滿ノ爲替手形,約束手形

(8) 營業ニ關セサル受取書

(9) 金高五圓未滿若ハ金高記載ナキ送狀,受取書,賣買仕切書

(10) 主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約

(11) 證券ノ裏面又ハ手形ノ裏面ニ記載シタル受取書

(12) 株券,債券ノ讓渡ヲ證明スヘキ裏面記載

(13) 手形ノ引受,保證,手形及證券ノ拒絕證書,手形及證書ノ複本,謄本

爲替手形,約束手形,船荷證券,運送貨物引換證,倉荷預證書,倉荷質入證券,保險證券,株券,債券ハ現金ヲ納付シテ稅印ノ押捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代フルコトヲ得

○明治三十四年三月法律第十六號ヲ以テ爲替手形,約束手形ノ稅率金高二千圓未滿(五百圓以上)印紙稅二錢同二千圓以上同十錢ヲ倒リ更ニ爲替手形,約束手形一通每ニ同二錢ト爲シ又稅印ノ押捺ノ範圍ヲ擴張シテ總テノ證書帳簿ニ及ホスコトトス

○明治三十八年一月法律第一號ヲ以テ非常特別稅法ニ改正ヲ加ヘ新ニ印紙稅ノ增徵ヲ定ム法第四條ノ證書帳簿(約束手形ヲ除ク)印紙稅一錢。委任狀同一錢。判取帳同五錢,約束手形金額千圓以下同一錢,五千圓以下同四錢,一萬圓以下同十三錢,二萬圓以下同二十八錢,三萬圓以下同五十八錢,五萬圓以下同一圓十八錢,十萬圓以下同二圓三十八錢,十萬圓ヲ超ユルモノ同四圓九十八錢,小切手同一錢

○明治四十年三月法律第二十七號ヲ以テ小切手ノ印紙稅ヲ廢シ約束手形ノ稅率金高千圓以下印紙稅五錢,同五千圓以下同十錢,一萬圓以下同二十錢,同二萬圓以下同五十錢,同三萬圓以下同一圓同五萬圓以下同二圓,同十萬圓以下同四圓,同十萬圓ヲ超ユルモノ同七圓ニ改メ非常特別稅法中約束手形及小切手ニ關スル規定ヲ廢止シ同年四月一日ヨリ施行ス

○明治四十二年五月法律第四十二號ヲ以テ約束手形ノ稅率金高千圓以下ノ前ニ金高二百圓以下ノモノ印紙稅三錢ヲ加ヘ同年六月六日ヨリ施行ス

○明治四十三年三月法律第十四號ヲ以テ委任狀印紙稅一錢ヲ二錢ニ爲替手形以下ノ同二錢ヲ各三錢ニ判取帳ノ同二十錢ヲ二十五錢ニ改メ尙印紙稅ノ納付ヲ要セサル證書帳簿ニ金高一圓未滿ノ物品切手ヲ加ヘ非常特別稅法中印紙稅ニ關スル規定ヲ廢シ同年四月一日ヨリ施行ス

○明治四十四年三月法律第四十一號ヲ以テ印紙稅ノ納付ヲ要セサル證書帳簿ノ非課稅物件ノ範圍ヲ擴張シ同年四月一日ヨリ施行ス

○大正十一年四月法律第四十七號ヲ以テ信託法ノ改正ニ伴ヒ信託行爲ニ關スル證書一通每ニ印紙稅三錢ヲ加ヘ施行期日ハ勅令ヲ以テ定メラルル筈ナリシモ公布ニ至ラスシテ大正十二年法律第十二號ニ改正サル

○大正十二年三月法律第十二號ヲ以テ印紙稅法中記載金高五圓以上ヲ十圓以上トシ稅額最高限度五十圓ヲ百圓ニ流通頻繁ナル約束手形及ヒ物品又ハ有價證券ノ賣買ニ關スル證書ヲ凡テ三錢ノ定額稅ニ改メ貯蓄又ハ產業ニ關係アル證書,通帳ノ稅率ヲ輕減シテ最低額一錢ノ制ヲ設ケ尙處罰規定ヲ變更シ罰科金ノ最低額ヲ三圓ニ引上ケ家族雇人ノ犯則ニ就テハ證書帳簿ノ名義人ヲ處分スルコトニ改正シ大正十二年四月一日ヨリ施行ス

○大正十三年七月法律第十五號ヲ以テ復興貯蓄債券法中復興貯蓄債券ニハ印紙稅ヲ課セサル旨ヲ規定シ公布ノ日ヨリ施行ス

○大正十四年三月法律第四十號ヲ以テ輸出組合法及重要輸出品工業組合法ノ制定ニ伴ヒ本法中改正重要輸出品工業組合同聯合會及輸出組合ノ發スル出資證券ニ對シ三錢ノ定額印紙稅ヲ

課スルコトトシ同年九月一日ヨリ施行ス

○昭和二年三月法律第七號ヲ以テ印紙稅法中改正シ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

其ノ要領次ノ如シ

1. 從來ニ於テハ比例稅ト定額稅トノ制度ヲ併用シ來リタルモ比例稅ハ官民共ニ手數ヲ要スルコト甚シク延テハ不知不識ノ間印紙稅ノ逋脫ヲ爲ス者アルヲ免カレサルヲ以テ之ヲ廢止シ階級定額稅ト定額稅トノ兩制度ノ併用ニ改ム

2. 下ノ證書ハ從來比例稅ヲ課シタルモ之ヲ階級定額稅ニ改ム

消費貸借證書	記載金高	五十圓以下	二　錢
	同	百圓以下	三　錢
請負契約書	同	五百圓以下	十　錢
不動產又ハ船舶ノ讓渡ニ關スル證書	同	千圓以下	二十錢
傭船契約書	同	一萬圓以下	五十錢
	同	一萬圓ヲ超ユルモノ	一　圓

3. 下ノ證書ハ從來比例稅ヲ課シタルヲ之ヲ定額稅ニ改ム

不動產又ハ船舶ノ質權、抵當權ノ設定ニ關スル證書　三　錢

特ニ揭ケサル證書　三　錢

3. 下ノ證書ニ對シテハ免稅スルコトトシ印紙稅ノ納付ヲ要セサル證書帳簿中ニ追加ス

貯蓄銀行ノ發スル貯金通帳、產業組合ノ發スル貯金通帳及積金通帳、積金證書、產業組合ノ發スル貯金通帳、產業組合又ハ住宅組合ノ發スル出資證券、農業倉庫證券、寶買仕切書、物品又ハ有價證券ノ賣買ニ關スル證書、送狀、買札、買物通帳、職工勤務通帳、乘車券、乘船券又ハ各種入場券

5. 負擔ノ均衡ヲ圖ルト同時ニ上記改正ニ伴フ收入ノ減少ヲ補塡センカ爲ニ通帳(貯金通帳ヲ除ク)三錢ヲ五錢ヲ五十錢ヲ二十五錢ニ引上ク

○昭和四年三月法律第十九號ヲ以テ家畜保險法中同法ヲ制定シ同年九月一日ヨリ施行ス

骨牌稅

(明治三十四年四月法律第四十號骨牌稅法)

○稅　率

骨牌稅一組每ニ　麻雀ニ在リテハ……三　圓

　　其ノ他ニ在リテハ……五十錢

骨牌稅ハ骨牌ノ包裏ニ印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ

○明治三十五年四月法律第四十四號ヲ以テ骨牌稅法ヲ制定シ同年七月一日ヨリ施行ス

稅　率	免許料	製造所一箇所每年	六十圓
	骨牌稅	一組每ニ	二十錢
納　期	免許料	其年一月中	

骨牌稅ハ骨牌ヲ製造シ又ハ輸入シタルトキハ製造後二十四時間又ハ稅關若ハ保稅倉庫ヨリ引取前ニ於テ一組每ニ骨牌ノ包裏ニ印紙ヲ貼付シテ之ヲ納ムヘシ

免除及除外規定。外國ニ輸出スル骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲スモノノ見本ニ供スル骨牌ニ付テハ免稅シ伊呂波加留多、歌加留多及政府ノ認許ヲ得タル骨牌ニハ本法ヲ適用セス

○明治三十五年五月勅令第百五十五號ヲ以テ骨牌ニ貼用スヘキ印紙ハ骨牌印紙ニ限ルコトトス

○大正七年九月勅令第三百五十九號骨牌稅法施行規則中改正シ骨牌ニ貼用スヘキ印紙ハ收入印紙ヲ用フルコトトシ明治三十五年五月勅令第百五十五號骨牌印紙ニ關スル勅令ハ之ヲ廢止ス

○大正十五年三月法律第二十號ヲ以テ本法ヲ改正シ免許料ヲ廢シ新ニ麻雀一組每ニ三圓ノ課稅ヲ爲シ其ノ他ノモノヲ五十錢ニ引上ケ同年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

登　錄　稅

(明治二十九年三月法律第二十七號登錄稅法)

○稅　率

1 不動產ニ關スル登記　(第二條)

1	相續ニ因ル所有權ノ取得……不動產價格	千分ノ五
2	遺言、贈與其ノ他無償取得ニ因ル所有權ノ名義……不動產價格	千分ノ四十五
	但シ神社、寺院、祠宇、佛堂ヲ除キ法人ニ寄附シ依リ設立シタル所有權ヲ及又ハ民法第三十四條ノ規定ニ依リ國ニ歸屬スル場合ニ於テ國ヨリ受ケタル不動產ノ價格……不動產價格	千分ノ二十五
3	前各號ニ因ル所有權ノ原因ニ以外ノ取得……不動產價格	千分ノ三十三
4	所有權ノ保存……不動產價格	千分ノ五
5	共有物ノ分割……分割ニ因リテ受ケタル不動產ノ價格	千分ノ五
6	地上權、永小作權又ハ賃借權ノ取得	
	存續期間十年以下ノモノ……不動產價格	千分ノ一
	同　二十年以下ノモノ……不動產價格	千分ノ二
	同　三十年以下ノモノ……不動產價格	千分ノ四
	同　五十年以下ノモノ……不動產價格	千分ノ七
	同　七十年以下ノモノ……不動產價格	千分ノ十
	同　百年以下ノモノ……不動產價格	千分ノ十五
	同　百年ヲ超ユルモノ……不動產價格	千分ノ二十
	存續期間ノ定メナキモノ……不動產價格	千分ノ一
	存續期間ノ定メナキモノ若ハ第六十六條ノ規定ニ依リ民法第百七十九條第二項ノ適用ノ二又ハ第一ノ適用ニ百分ノ二十ヲ加ヘタル存續期間ノ定メアルモノ……不動產價格	千分ノ四

相續ニ因ル取得ニシテ存續期間三十年ヲ超ユルモノ……不動産價格　千分ノ五

權利ノ移轉ニ依ル取得ノ場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期間ヲ以テ存續期間ト看做ス

7 地役權ノ取得……要役地價格　千分ノ一

8 華族世襲財產ノ設定……不動產價格　千分ノ二十五

9 先取特權ノ保存又ハ取得……債權金額　不動產價額　工事費用豫算金額　千分ノ五·五

10 質權、抵當權ノ取得……債權金額　千分ノ五·五

11 信託ノ登記

所有權ニ付テハ……不動產價格　千分ノ四

所有權以外ノ權利ニ付テハ……不動產價格　千分ノ二

12 競賣、强制管理ノ申立……債權金額　千分ノ五·五

13 假差押、假處分……債權金額　千分ノ四

14 抵當アル債權ノ差押……債權金額　千分ノ五·五

15 相續財產ノ分離

所有權ニ付テハ……不動產價格　千分ノ五·五

所有權以外ノ權利ニ付テハ……不動產價格　千分ノ一

16 滯納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ揭ケサルモノ……債權金額　千分ノ四

17 抹消シタル登記ノ回復……不動產每一箇　金四十錢

18 假登記……不動產每一箇　金四十錢

19 附記登記……不動產每一箇　金二十錢

但シ一件ニ付稅額金二圓ヲ超ユルトキハ二圓トス

20 登記ノ更正、變更又ハ抹消……不動產每一箇　金二十錢

但シ一件ニ付稅額金二圓ヲ超ユルトキハ二圓トス

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

2 船舶ニ關スル登記(第三條)

1 相續ニ因ル所有權ノ取得……船舶價格　千分ノ三

2 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得……船舶價格　千分ノ三十五

3 前各號所有權以外ノ權利ノ原因ニ因ル取得……船舶價格　千分ノ二十三

4 委付……船舶價格　千分ノ三

5 所有權ノ保存……船舶價格　千分ノ三

6 賃借權ノ取得……船舶價格　千分ノ一

7 抵當權ノ取得……債權金額　千分ノ五·五

8 信託ノ登記

所有權ニ付テハ……船舶價格　千分ノ三

所有權以外ノ權利ニ付テハ……船舶價格　千分ノ一

9 競賣ノ申立……債權金額　千分ノ五·五

10 假差押、假處分……債權金額　千分ノ四

11 抵當アル債權ノ差押……債權金額　千分ノ五·五

12 滯納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ揭ケサルモノ……債權金額　千分ノ四

13 登記證書ヲ提出セスシテ受ケタル特別登記簿ノ登記ヲ登記簿ニ移ス場合ニ於ケル登記……船舶每一箇　金一圓

14 抹消シタル登記ノ回復……船舶每一箇　金四十錢

15 假登記……船舶每一箇　金四十錢

16 附記登記……船舶每一箇　金二十錢

17 登記ノ更正、變更又ハ抹消……船舶每一箇　金二十錢

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

3 信託財產タル不動產又ハ船舶ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記(第三條ノ二)

1 委託者カ元本ノ收益ノ歸屬ヲ受益者以外ノ者ニ委託シテ信託財產タル權利ヲ委託者ニ移ス場合ニ於ケル委託者ノ外ノ者ニ委託シテ信託財產タル權利ヲ受託者ニ移ス場合ニ於ケル受託者

不動產……不動產價格　千分ノ四

船舶……船舶價格　千分ノ三

2 委託者カ元本ノ收益ノ歸屬ヲ受益者以外ノ者ニ委託シテ信託財產タル權利ヲ受託者ニ移ス場合ニ於ケル委託者以外ノ者又ハ收益者ノ指定ニ依リ收益ノ歸屬ヲ受ケタル者ニ委託シテ信託財產タル權利ヲ受託者ニ移ス場合ニ於ケル受託者

不動產……不動產價格　千分ノ四十五

但シ神社、寺院、佛堂、祠宇、佛像、法具、墳墓ノ如キ第三本元ハ公共ノ用ニ供スル不動產又ハ法人ニ非サル社寸ニ依リ設置セラレタル不動產ニシテ專ラ信仰ノ用ニ供スルモノニ關スル權利ヲ受ケタル者ニ移ス場合ニ於ケル受益者ニ對スル第三本元ハ公共ノ用ニ供スル不動產又ハ法人ニ非サル社寸ニ依リ設置セラレタル不動產ニシテ專ラ信仰ノ用ニ供スルモノニ關スル權利ヲ受ケタル者ニ移ス場合ニ於ケル受益者ニ對スル……不動產價格　千分ノ二十五

船舶……船舶價格　千分ノ三十五

3 三本ハ第元キ法カト民人ルハ法ナト歸託ナ者ハ委者託又ハ益委者又受ハ益者ノ又受ノ益者ノ外收ノ末以カ外元者ト以カ託者託ト委ノ委者テ外ノシ以外ニ者以者託者利委託託權ト信委屬者ル

不動產……不動產價格　千分ノ四十五

三本ハ第元キ法カト民人ルハ法ナ又ル者堂タ利佛シ權宇立屬祠設歸院リハ寺依又社ニ者神條益シ四受但十ノ……不動產價格　千分ノ二十五

船舶……船舶價格　千分ノ三十五

又第二項第一號ノ信託ニ付信託ノ登記ノ事項ヲ變更シタル爲前項第一號ノ信託ノ登記ヲ以テ第三號ノ規定ヲ適用ス

4 委託者カ收益ノ受益者ニシテ委託者ト委託者ノ財產ヲ信託ニシテ信託ノ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナル信託ノ元本ヲ受託者ヨリ受益者ノ外ノ者又ハ委託者以外ノ者ニ信託ノ利益ヲ受ケシムル場合ニ於ケル所有權取得ノ登記（第三條ノ四）

不動產……不動產價格　千分ノ四十五

三本ハ第元キ法カト民人ルハ法ナ又ル者堂タ利佛シ權宇立屬祠設歸院リハ寺依又社ニ者神條益シ四受但十ノ……不動產價格　千分ノ二十五

船舶……船舶價格　千分ノ三十五

受託者ヨリ受益者又ハ歸屬權利者ニ不動產又ハ船舶ヲ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ前項ニ該當スル場合ノ外登錄稅ヲ課セス

5 鐵道抵當原簿又ハ軌道抵當原簿登錄（第三條ノ五）

1 抵當權ノ取得……債權金額　千分ノ一

1.2信託ノ登錄……債權金額　千分ノ一

2 強制競賣、強制管理ノ申立……債權金額　千分ノ一

3 登錄ノ更正、變更又ハ抹消……每一件　金二圓

6 工場財團登記簿、鑛業財團登記簿又ハ漁業財團登記簿ノ登記（第三條ノ六）

1 抵當權ノ取得……債權金額　千分ノ一

2 信託ノ登記……債權金額　千分ノ一

3 競賣、強制管理ノ申立……債權金額　千分ノ一

4 假差押、假處分……債權金額　千分ノ一

5 抵當アル債權ノ差押……債權金額　千分ノ一

6 滯納處分ノ制限以外ノ原因ニ因ルモノノ處分ニ因ケル權利ノ抹消ニ揭特サルノ……債權金額　千分ノ一

7 抹消シタル登記ノ回復……每一件　金二圓

8 假登記……每一件　金二圓

9 附記登記……每一件　金二圓

10 登記ノ更正、變更又ハ抹消……每一件　金二圓

7 船籍ノ登錄（第四條）

1 新規登錄……每十噸　金五十錢

2 轉籍……每十噸　金十錢

3 除籍……每十噸　金五錢

4 登錄ノ變更……每一箇船舶　金十錢

船舶ノ噸數ハ總噸數ニ依ル但シ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在テハ積石數百石ヲ十噸トシテ計算ス

8 商事會社其ノ他ノ營利ヲ目的トスル法人ノ登記（第六條）

1 合名會社、合資會社設立……財產ヲ目的トスル出資ノ價格　千分ノ五（但シ稅金二十圓未滿ナルトキハ二十圓トス）

2 合名會社、合資會社出資增加……財產ヲ目的トスル增出資ノ價格　千分ノ五

3 株式會社設立……拂込株金額　千分ノ五（但シ稅金二十圓未滿ナルトキハ二十圓トス）

4 株式會社資本增加……增資拂込株金額　千分ノ五

5 株式會社第二回以後ノ株金拂込……每回拂込株金額　千分ノ五

6 株式合資會社設立……拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資價格　千分ノ五（但シ稅金二十圓未滿ナルトキハ二十圓トス）

7 株式合資會社資本增加……增資拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格　千分ノ五

8 株式合資會社第二回以後ノ株金拂込……每回拂込株金額　千分ノ五

9 合併又ハ組織變更ニ因ル會社ノ設立……拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格　千分ノ一（但シ稅金二十圓未滿ナルトキハ二十圓トス）

但シ合併ニ因ル株金拂込ノ時以外ノ會社又ハ組織變更ノ時ニ於ケル株金拂込ノ額ニ付テハ組織變更金ハ合併ニ因ル株金拂込ノ額ニ付テハ組織變更金ハ合併ニ因ル株金拂込ノ額ニ付テハ組織變更金ハ……千分ノ五

10 合併ニ因ル會社資本增加……增資拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格　千分ノ一

但シ合併ニ因リ消滅シタル會社ノ合併當時ノ拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ヲ超過スル金額ニ付テハ …… 千分ノ五

11 社債又ハ第二回以後ノ社債拂込

商法第二百四條ノ拂込アリタル日(賣出ノ方法ニ依リ發行シタル場合ニ於テハ賣出ノ滿了ノ日)ヨリ最終ノ償還期限ニ至ル期間一年以下ノモノ ……毎回拂込金額 千分ノ一

同三年以下ノモノ ……毎回拂込金額 千分ノ二

同三年ヲ超ユルモノ ……毎回拂込金額 千分ノ三

但シ産業債券、農工債券、北海道拓殖債券、興業債券、勸業債券又ハ東洋拓殖債券ニ付テハ …… 千分ノ二

12 支店設置 ……毎一箇所 金二十圓

13 本店又ハ支店ノ移轉 ……毎一件 金十圓

14 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 ……毎一件 金十圓

15 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 ……毎一件 金十圓

但シ商法施行法ニ依リ新ニ登記スヘキ事項ノ登記ハ登記事項ノ變更ト看做ス

16 登記ノ更正又ハ抹消 ……毎一件 金十圓

16.2 合名會社、合資會社設立ノ取消 ……毎一件 金七圓

17 解散 ……毎一件 金七圓

18 清算人ノ選任、解任又ハ變更 ……毎一件 金二圓

19 清算ノ結了 ……毎一件 金二圓

支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ 毎一件 金二圓

朝鮮、臺灣、關東州、樺太若ハ南洋群島ニ於ケル法人又ハ外國會社カ登記ヲ受クルトキハ ……毎一件 金二圓

9 商號ノ新設其ノ他ニ關スル登記(第六條ノ二)

1 商號ノ新設又ハ取得 ……毎一件 金十圓

2 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 ……毎一件 金十圓

3 船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 ……毎一件 金十圓

4 商法第五條第七條ニ依ル登記 ……毎一件 金五圓

5 民法第七百九十四條第七百九十五條及第七百九十七條ニ依ル登記 ……毎一件 金五圓

6 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 ……毎一件 金二圓

7 登記ノ更正又ハ抹消 ……毎一件 金二圓

支店所在地ニ於テ前各號ノ登記ヲ受クルトキハ ……毎一件 金一圓

10 辯護士名簿ノ登錄(第七條)

1 新規登錄 ……金二十圓

2 登錄換 ……金十圓

3 取消ノ請求 ……金一圓

11 醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工ノ官簿登錄(第八條)

1 新規登錄

醫師	金二十圓	假開業醫師	金五圓
藥劑師	金十二圓	假免許獸醫	金三圓
獸醫	金十二圓	假免許蹄鐵工	金一圓
蹄鐵工	金五圓		

2 登錄事項ノ變更 ……毎一件 金五十錢

12 海員ノ官簿登錄(第九條)

1 新規登錄

甲種船長	金十五圓	丙種運轉士	金二圓
甲種一等運轉士	金十圓	機關長	金十五圓
甲種二等運轉士	金六圓	一等機關士	金十圓
乙種船長	金十圓	二等機關士	金六圓
乙種一等運轉士	金四圓	三等機關士	金三圓
乙種二等運轉士	金三圓	水先人	金二十圓
丙種船長	金六圓		

2 登錄事項ノ變更 ……毎一件 金五十錢

13 著作權ニ關スル登錄(第十條)

1 著作權ノ移轉

相續 ……毎一件 金一圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉 ……毎一件 金五圓

2 著作權ヲ目的トスル質權ノ設定 ……債權金額 千分ノ五・五

3 前號ノ權利ノ移轉

相　續……每　一　件　金五十錢
相續以外ノ原因ニ因ル移轉……每　一　件　金　一　圓
4 無名又ハ變名著作物ノ著作者ノ實名登錄……每　一　件　金　二　圓
4.2信託ノ登錄……每　一　件　金　一　圓
5 登錄ノ更正、變更又ハ抹消……每　一　件　金二十錢

14 特許ニ關スル登錄(第十一條)

1 特許權ノ移轉
相　續……每　一　件　金　一　圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉……每　一　件　金　十　圓
2 實施權ノ設定又ハ保存……每　一　件　金　五　圓
3 前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定……債　權　金　額　千分ノ五·五
4 前二號ノ權利ノ移轉
相　續……每　一　件　金五十錢
相續以外ノ原因ニ依ル移轉……每　一　件　金　二　圓
5 信託ノ登錄……每　一　件　金　二　圓
6 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限……債　權　金　額　千分ノ四
7 代理人ノ選任又ハ代理權ノ登錄……每　一　件　金五十錢
8 抹消シタル登錄ノ回復……每　一　件　金五十錢
9 假登錄……每　一　件　金五十錢
10 登錄ノ更正、變更又ハ抹消……每　一　件　金五十錢

15 意匠ニ關スル登錄(第十二條)

1 意匠權ノ移轉
相　續……每　一　件　金　一　圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉……每　一　件　金　二　圓
2 實施權ノ設定又ハ保存……每　一　件　金　一　圓
3 前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定……債　權　金　額　千分ノ五·五
4 前二號ノ權利ノ移轉
相　續……每　一　件　金五十錢

相續以外ノ原因ニ因ル移轉……每　一　件　金　一　圓
5 信託ノ登錄……每　一　件　金　一　圓
6 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限……債　權　金　額　千分ノ四
7 代理人ノ選任又ハ代理權ノ登錄……每　一　件　金五十錢
8 抹消シタル登錄ノ回復……每　一　件　金五十錢
9 假登錄……每　一　件　金五十錢
10 登錄ノ更正、變更又ハ抹消……每　一　件　金二十錢

16 實用新案ニ關スル登錄(第十二條ノ二)

1 實用新案權ノ移轉
相　續……每　一　件　金　一　圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉……每　一　件　金　五　圓
2 實施權ノ設定又ハ保存……每　一　件　金　二　圓
3 前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定……債　權　金　額　千分ノ五·五
4 前二號ノ權利ノ移轉
相　續……每　一　件　金五十錢
相續以外ノ原因ニ因ル移轉……每　一　件　金　一　圓
5 信託ノ登錄……每　一　件　金　一　圓
6 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限……債　權　金　額　千分ノ四
7 代理人ノ選任又ハ代理權ノ登錄……每　一　件　金五十錢
8 抹消シタル登錄ノ回復……每　一　件　金五十錢
9 假登錄……每　一　件　金五十錢
10 登錄ノ更正、變更又ハ抹消……每　一　件　金二十錢

17 商標ニ關スル登錄(第十三條)

1 商標權ノ移轉
相　續……每　一　件　金　一　圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉……每　一　件　金　十　圓
2 信託ノ登錄……每　一　件　金　二　圓
3 代理人ノ選任又ハ代理權ノ登錄……每　一　件　金五十錢

4 抹消レタル登錄ノ回復 ……毎 一 件 金五十錢
5 假登錄 ……毎 一 件 金五十錢
6 登錄ノ更正、變更又ハ抹消 ……毎 一 件 金五十錢

18 鑛業權ニ關スル鑛業原簿ノ登錄(第十四條)
1 試掘權ノ設定 ……毎 一 件 金百圓
2 試掘權ノ變更
增區又ハ增減區 ……毎 一 件 金四十五圓
減 區 ……毎 一 件 金十圓
3 試掘權ノ移轉
相 續 ……毎 一 件 金十圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 ……毎 一 件 金四十五圓
4 採掘權ノ設定
新規登錄 ……毎 一 件 金二百圓
鑛區合併 ……毎 一 件 金五十圓
鑛區分割 ……設定鑛區毎一箇 金五十圓
5 採掘權ノ變更
鑛區訂正 ……毎 一 件 金五十圓
增區又ハ增減區 ……毎 一 件 金百圓
減 區 ……毎 一 件 金二十圓
6 採掘權ノ移轉
相 續 ……毎 一 件 金二十圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 ……毎 一 件 金百圓
7 抵當權ノ設定
新規登錄 ……債權金額 千分ノ五・五
鑛業法第三十五條第二項ニ基キ爲シタル承諾及協定ニ因ル設定 ……毎 一 件 金五圓
8 順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更 ……毎 一 件 金十圓
9 抵當權ノ移轉
相 續 ……毎 一 件 金五圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉 ……毎 一 件 金十圓
10 信託ノ登錄 ……毎 一 件 金十圓
11 共同鑛業權者ノ脫退 ……毎 一 件 金五圓
12 滯納處分以外ノ原因ニ因ル鑛業權又ハ抵當權ノ處分ノ制限 ……債權金額 千分ノ四
13 廢業ニ因ル鑛業權ノ消滅 ……毎 一 件 金五圓
14 抹消シタル登錄ノ回復 ……毎 一 件 金四十錢
15 假登錄 ……毎 一 件 金四十錢
16 登錄ノ更正、變更又ハ抹消 ……毎 一 件 金二十錢

19 砂鑛業ニ關スル砂鑛業原簿ノ登錄(第十五條)
1 砂鑛權ノ設定
新規登錄 ……採取區域 河床ハ毎二里迄其ノ他ハ毎十萬坪迄 金十五圓
砂鑛區合併 ……毎 一 件 金三圓
砂鑛區分割 ……設定砂鑛區毎一箇 金三圓
2 砂鑛權ノ變更
增 區 ……採取區域 河床ハ毎二里迄其ノ他ハ毎十萬坪迄 金十五圓
減 區 ……毎 一 件 金一圓
但シ增區ト同時ニ爲ス減區ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
3 砂鑛權ノ移轉
相 續 ……毎 一 件 金五圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 ……毎 一 件 金十五圓
4 抵當權ノ設定
新規登錄 ……債權金額 千分ノ五・五
砂鑛區ノ合併又ハ分割ノ出願ニ付砂鑛法ニ基キ爲シタル承諾又ハ協定ニ因ル設定 ……毎 一 件 金五圓
5 順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更 ……毎 一 件 金十圓
6 抵當權ノ移轉
相 續 ……毎 一 件 金五圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 ……毎 一 件 金十圓
7 信託ノ登錄 ……毎 一 件 金五圓

8 滯納處分以外ノ原因ニ因ル砂鑛權又ハ抵當權ノ處分ノ制限……債權金額 千分ノ四

9 廢業ニ因ル砂鑛權ノ消滅……每 一 件 金一圓

10 抹消シタル登錄ノ回復……每 一 件 金四十錢

11 假登錄……每 一 件 金四十錢

12 登錄ノ更正、變更又ハ抹消……每 一 件 金二十錢

20 漁業權又ハ入漁權ニ關シ免許漁業原簿ノ登錄(第十五條ノ二)

1 漁業權ノ移轉

相 續……每 一 件 金一圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉……每 一 件 金五圓

2 漁業權ノ持分ノ移轉

相 續……每 一 件 金四十錢

相續以外ノ原因ニ因ル移轉……每 一 件 金一圓

3 入漁權ノ設定……每 一 件 金三圓

4 入漁權ノ保存……每 一 件 金五十錢

5 入漁權ノ移轉

相 續……每 一 件 金五十錢

相續以外ノ原因ニ因ル移轉……每 一 件 金二圓

6 入漁權ノ持分ノ移轉

相 續……每 一 件 金二十錢

相續以外ノ原因ニ因ル移轉……每 一 件 金五十錢

7 賃借權ノ取得

相 續……每 一 件 金五十錢

相續以外ノ原因ニ因ル取得……每 一 件 金二圓

8 先取特權ノ保存又ハ取得……債權金額又ハ工事費用豫算金額 千分ノ五·五

9 抵當權ノ設定又ハ移轉

設 定……債權金額 千分ノ五·五

相 續……每 一 件 金一圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉……每 一 件 金二圓

10 信託登錄……每 一 件 金二圓

11 競賣、强制管理ノ申立……債權金額 千分ノ五·五

12 假差押、假處分……債權金額 千分ノ四

13 抵當アル債權ノ差押……債權金額 千分ノ五·五

14 滯納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ掲ケサルモノ……債權金額 千分ノ四

15 抹消シタル登錄ノ回復……每 一 件 金四十錢

16 假登錄……每 一 件 金四十錢

17 附記登錄……每 一 件 金二十二錢

18 登錄ノ更正、變更又ハ抹消……每 一 件 金二十錢

21 法人ノ合併ニ因ル不動產又ハ船舶ニ關スル權利ノ取得ニ付登記(第十六條)

法人ノ合併ニ因ル法人ノ權利取得……不動產又ハ船舶ノ價格 千分ノ三

但シ他ノ規定ニ依リ算出シタル稅額カ本條ニ依リ算出シタル稅額ヨリ少ナキトキハ其ノ稅額ニ依ル

債權金額ナキトキ又ハ債權金額ノ一定ノ場合ニ於テ一定ノ額ヲ稅額ト定ムル場合ニ於テハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做シ先取特權、質權、抵當權又ハ處分ノ制限ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス但シ抵當アル債權ノ差押ヲ登記又ハ登錄スル場合ニ於テハ差押ヘラルヘキ債權ノ額又ハ質權若ハ抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ少ナキトキハ其ノ最モ少ナキモノヲ以テ債權金額ト看做ス(第十六條ノ二)

管轄ヲ異ニスル登記所ニ於テ順次ニ不動產登記法第百二十二條ノ規定ニ依ル登記ヲ受クル場合ニ於テ各登記所ニ於テ受ケタル登記ニ付テハ債權金額ヨリ既ニ登記ヲ受ケタルモノノ價格ヲ控除シタル殘額ヲ以テ債權金額ト看做ス(第十六條ノ三)

○明治二十九年三月法律第二十七號ヲ以テ登錄稅法ヲ制定シ同年四月一日ヨリ施行ス(稅率略ス)

登錄稅法ハ登記法、商法、版權法、特許法、戶籍法、地租條例、土地臺帳規則其ノ他ノ法令ニ依リ特定事項ノ登記又ハ登錄ヲ請フ者ニ對シ登錄稅ヲ課スル場合ニ於テ課稅ノ方法ハ定額稅ニ依ルモノト比例稅ニ依ルモノトノ二種アリ

登錄稅ハ總テ一錢以上トシ一錢未滿ハ一錢ト算計ス

徴税方法ハ原則トシテ印紙貼用ノ法ヲ用ヰ勅令ヲ以テ現金徴收ノ例外ヲ認メタリ

從來個人ノ利益ノ爲メ國家ニ於テ登簿ノ手續ヲ爲セル場合ニ於テ或種ノ事項ニ對シテハ登記料又ハ手數料ヲ徴シ來レルモノアリシカ登錄稅法ノ制定ト共ニ右手數料登記料等ニシテ本稅法ト重複スルモノハ總テ之ヲ廢止ス

○明治三十年三月法律第三十一號ヲ以テ戸籍ノ登錄ニ登錄稅ヲ課スルコトハ之ヲ輕減ニ徴シテ戸籍ノ不正確ヲ來シ人事統理ノ基礎ヲ紊亂スルノ虞レアルヲ認メ戸籍登錄ニ關スル登錄稅ヲ廢止ス

○明治三十二年三月法律第六十號及同年同月法律第八十三號,同三十三年三月法律第四十四號,同三十四年四月法律第二十六號及同三十五年二月法律第八號ヲ以テ各稅率及其ノ他ノ改正アリ

○明治三十四年四月法律第二十五號ヲ以テ北海道屯田兵土地給與規則ニ依リ屯田兵村ニ給與シタル土地ニ付給與ノ日ヨリ六箇月以內ニ登錄ヲ請求シ又ハ土地臺帳ニ登錄スルトキハ其ノ登錄稅ヲ免除ス

○明治三十七年四月法律第三號非常特別稅法ヲ以テ不動產,船舶,商事會社,商號及鑛業ニ關スル登錄稅ヲ增徴ス

○明治三十八年一月法律第九號ヲ以テ一部稅率ノ改正ヲ行ヒ更ニ非常特別稅法ニ改正ヲ加ヘ登錄稅ノ增徴率ヲ定メ同年四月一日ヨリ施行ス

○明治三十八年一月法律第九號,同年三月法律第五十七號,同第五十八號,同三十九年四月法律第三十五號,同四十二年三月法律第十四號,同四十二年四月法律第三十一號ヲ以テ各稅率ノ改正アリ

○明治四十三年三月法律第十一號ヲ以テ一部改正(同年四月一日ヨリ施行)シ非常特別稅法中登錄稅ニ關スル規定ヲ廢止ス

○明治四十三年三月法律第六十四號ヲ以テ輕便鐵道法,漁業法等ノ制定ニ伴ヒ本法ノ一部ヲ改正シ漁業權又ハ入漁權ニ關スル免許漁業原簿ノ登錄事項ヲ追加ス

○大正三年三月法律第二十一號ヲ以テ船舶ニ關スル登錄稅其ノ他不適當ト認ムルモノアリシニ依リ一部稅率ヲ改正シ同年十一月十五日ヨリ施行ス

○大正七年三月法律第十四號ヲ以テ財團法人又ハ營利ヲ目的トセサル社團法人ノ登記ニ關スル登錄稅ヲ廢止シ同年三月二十五日ヨリ施行ス

○大正十年四月勅令第百七十一號ヲ以テ登錄稅法ノ一部ヲ同年四月二十六日ヨリ樺太ニ施行ス

○大正十一年四月法律第四十六號ヲ以テ信託法ノ制定ニ伴フ事項ヲ改正追加シ大正十二年一月一日ヨリ施行ス

○大正十三年七月法律第十五號復興貯蓄債券法中復興貯蓄債券ノ發行ニ依ル社債ノ登記ニハ登錄稅ヲ課セサル旨ヲ規定シ公布ノ日ヨリ施行ス

○大正十四年三月法律第二十一號ヲ以テ漁業財團抵當法ノ制定ニ伴ヒ漁業財團登記簿ニ登記ヲ爲ス場合ノ登記稅ヲ追加シ同年七月一日ヨリ施行ス

○大正十四年三月法律第二十一號ヲ以テ重要輸出品工業組合同聯合會及輸出組合ヲ爲ス登記ニ對シ登錄稅ヲ免除スル旨ヲ規定シ同年九月一日ヨリ施行ス

○昭和二年三月法律第六號ヲ以テ稅率其ノ他ニ亘リ根本的ニ改正シ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

其ノ要領次ノ如シ

1. 不動產及船舶ニ對スル登錄稅

(1) 賣買ニ因ル所有權ノ取得,不動產價格千分ノ三十五ヲ千分ノ三十三ニ,船舶,船舶價格千分ノ二十五ヲ千分ノ二十三ニ輕減ス

(2) 遺言贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得,不動產,不動產價格千分ノ六十ヲ千分ノ四十五ニ,船舶,船舶價格千分ノ五十ヲ千分ノ三十五ニ輕減ス

(3) 神社,寺院及公益法人ノ無償名義ニ因ル不動產所有權ノ取得,不動產價格千分ノ三十三ヲ千分ノ二十五ニ輕減ス

(4) 信託財產ニ付キ不動產信託ノ登記千分ノ五,當初委託者ヨリ受託者ニ所有權ヲ移ス場合ニ於テ贈與ノ場合ト同シク不動產ニ在リテハ千分ノ六十,船舶ニ在リテハ千分ノ五十ノ稅率ヲ課シタルヲ信託登記ニ付テハ稅率ヲ輕減シ信託財產ノ移轉ニ付テハ信託ノ內容ニ依リ稅率ヲ區分スルコトトシ下ノ如ク改正ス

イ,信託ノ登記,不動產,不動產價格千分ノ五ヲ千分ノ四ニ

ロ,信託財產ニ付受託者ノ所有權ノ取得

委託者以外ノ者カ全部ノ利益ヲ受クルトキ,不動產,不動產價格千分ノ四十五,船舶,船舶價格千分ノ三十五委託者カ元本ノ歸屬權利者ニシテ委託者以外ノ者カ收益受益權者ナルトキ,不動產,不動產價格千分ノ四,船舶,船舶價格千分ノ三

委託者カ收益受益權者ニシテ委託者以外ノ者カ元本ノ歸屬權利者ナルトキハ課稅セス但シ其ノ信託財產ヲ受託者ヨリ歸屬權利者ニ移轉スルトキニ於テハ不動產,不動產價格千分ノ四十五,船舶,船舶價格千分ノ三十五

ハ,信託ノ目的ノ變更竝受益者ノ變更等ノ場合ニ關シ規定ス

(5) 貸借權ノ取得ハ地上權,永小作權ノ取得ト其ノ稅率ヲ同シクシ下ノ如ク改正ス

存續期間十年以下	不動產價格千分ノ一	存續期間七十年以下	不動產價格千分ノ十
同 二十年以下	同 千分ノ二	同 百年以下	同 千分ノ十五
同 三十年以下	同 千分ノ四	同 百年ヲ超ユルモノ	同 千分ノ二十
同 五十年以下	同 千分ノ七		

存續期間ノ定メナキモノニシテ民法第二百六十八條,第二百七十八條又ハ借地法第二條ノ規定ノ適用アルモノ不動產價格千分ノ四,其他ノ不動產貸借權ニシテ存續期間ノ定メナキモノ不動產價格千分ノ一

相續ニ因リ取得スル場合ニシテ其ノ稅率千分ノ五ヲ超ユル場合ニハ千分ノ五トス

2. 先取特權ノ保存,取得及質權,抵當權ノ取得等ノ稅率債權金額千分ノ六ヲ千分ノ五・五ニ輕減ス

3. 法人ノ合併ノ場合ニ於ケル登錄稅

(1) 合併ニ因ル設立又ハ資本ノ增加,拂込株式金額又ハ出資價格千分ノ二ヲ千分ノ一ニス但シ合併當時ノ拂込金額又ハ出資ノ價格ヲ超過スル部分ニ付テハ設立ノ場合ニ準シテ課稅ス

(2) 合併ニ因ル權利ノ取得,不動產又ハ船舶價格千分ノ五ヲ千分ノ三ニ輕減ス

4. 下ノ場合ニ於テハ免除ス

(1) 命令ノ定ムル所ニ依リ住宅又ハ住宅用地ニ付住宅組合員若ハ產業組合員カ其ノ所屬組合ヨリノ所有權ノ取得

(2) 農業倉庫又ハ聯合農業倉庫ノ建設又ハ其ノ敷地ノ取得

(3) 自作農ノ維持創設事業ニ關スル補助金ノ交付ヲ受ケテ行フ道府縣市町村產業組合ノ施設ニ依ル土地所有權ノ所得

(4) 前號ノ場合又ハ住宅ノ供給ニ關シ道府縣市町村產業組合ノ諸事業ノ爲ニスル抵當權ノ取得

(5) 市町村ノ一部ニ屬スル財產ヲ其ノ市町村ニ移ス場合ニ於ケル市町村ノ權利ノ取得又ハ之カ爲ニスル所有權ノ保存

(6) 市町村若ハ其ノ一部ノ共有財產ノ分割又ハ市町村若ハ其ノ一部ニ屬スル入會權ヲ解消スル爲ニスル市町村若ハ其ノ一部ノ權利ノ取得又ハ其ノ分割若ハ之カ爲ニスル所有權ノ保存但シ其ノ分割若ハ一市町村內ニ止マル場合ヲ除ク

(7) 命令ノ定ムル所ニ依リ宗教團體又ハ學校經營ヲ目的トスル法人ノ土地建物ノ取得又ハ其ノ所有權ノ保存

5. 土地臺帳ノ登錄稅ハ之ヲ廢止ス

6. 上記數種ノ改正ニ伴フ歲入ノ減少ヲ補塡シ且ツ負擔ノ均衡ヲ圖ランカ爲ニ商業登記其ノ他ニ付稅率ヲ引上ク

(1) 合名會社合資會社ノ設立又ハ資本增加ニ付テハ株式會社ノ場合ト同樣千分ノ四ヲ千分ノ五トス

(2) 社債ノ登記ニ付テハ從來一律ニ千分ノ二ナリシヲ償還期限ノ長短ニ依テ之ヲ區分シ稅率ヲ定ム

償還期限一年以下拂込金額千分ノ一同三年以下拂込金額千分ノ二同三年ヲ超ユルモノ拂込金額千分ノ三

但シ產業債券、農工債券、北海道拓殖債券及額面二十圓以下ノ勤業債券、東洋拓殖債券、興業債券、農工債券、北海道拓殖債券ニ付テハ償還期限三年ヲ超ユルモ千分ノ二トス

7. 各種ノ財團ニ關スル登記、辯護士、醫師、海員等ノ人的關係登錄、工業所有權ニ關スル登錄及鑛業權、漁業權ニ關スル登錄ヲ除キ一般ニ定額稅ニ付テハ約五割(小額ノモノニ付テハ十割)ノ上引ヲ爲ス

但シ鑛業權、漁業權ノ登錄稅中著シク低額ト認メラルル附記登錄ニ付テハ相當引上ヲ爲ス

○昭和二年三月法律第十八號ヲ以テ御料地拂下地ノ地租及登錄稅免除ニ關スル法律ヲ制定シ北海道ニ於ケル御料地ノ拂下地ニ付テノ拂下ニ因ル所有權取得ノ登記ニハ登錄稅ヲ免除スル旨ヲ規定シ同年三月三十日ヨリ施行ス

昭和四年三月法律第十九號ヲ以テ家畜保險法ヲ制定シ同法中ニ家畜保險組合カ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登錄稅ヲ課セサル旨ヲ規定シ同年九月一日ヨリ施行ス

○昭和四年四月法律第六十三號ヲ以テ外國カ其ノ大使館公使館又ハ領事館ノ敷地又ハ建物ニ關シテ受クル登記ニ付テノ相互免稅ノ規定ヲ制定シ公布ノ日ヨリ施行ス

關稅 (明治四十三年四月法律第五十四號關稅定率法)

○稅率 (煩ヲ避ケテ之ヲ省略ス)

○關稅ノ起源ハ安政五年德川幕府ト英、米、佛、露、蘭ノ五箇國間ニ締結セシ條約ニ基因シ其ノ後慶應二年五月英、佛、米、蘭ノ四箇國ト締結セシ改稅約書ニ依リ輸出輸入トモ總テ從價五分ノ運上ヲ基本トシタル目錄ニ依リ徵稅シ來リ爾來各種箇々ニ付數次稅率ノ改正ヲ經タリ

○明治三十年三月法律第十四號ヲ以テ關稅定率法ヲ制定シ同三十二年一月一日ヨリ施行ス又同年七月限リ條約改正ノ結果輸出稅ハ自然全廢ニ歸シタリ

○明治三十五年三月法律第十七號ヲ以テ生卵ノ輸入稅率ヲ改正ス

○明治三十七年四月法律第三號非常特別稅法ヲ以テ輸入稅ニ對スル增徵率ヲ定ム

○明治三十八年一月法律第一號ヲ以テ非常特別稅法ニ改正ヲ加ヘ輸入稅ニ對スル增徵率ヲ改正ス

○明治三十九年三月法律第十九號ヲ以テ外國市場ニ對スル自國商品ノ輸出ヲ奬勵スル爲輸入原料品ヲ用ヒ命令ヲ以テ指定シタル物品ヲ製造シ之ヲ外國ニ輸出シタルトキハ輸入稅ノ全部又ハ一部ヲ拂戾スコトトシ又自國ニ於ケル肥料製造ノ奬勵政策上輸入原料品ヲ用ヒ命令ヲ以テ指定シタル肥料ヲ製造シタルトキハ輸入稅ノ全部又ハ一部ヲ拂戾スコトトシ關稅定率法ヲ改正シ同年十一月一日ヨリ施行ス

○明治三十九年九月勅令第二百六十五號ヲ以テ關稅定率法ノ規定ニ依リ製造品、輸入原料品及之ニ對スル拂戾稅ノ率ヲ定ム(明治三十九年十二月勅令第三百十四號、同四十二年十月勅令第二百二十四號、同四十三年十二月勅令第四百三十九號、同四十四年七月勅令第百九十七號、大正三年五月勅令第百二號、同四年十一月勅令第二百八號、同五年四月勅令第百十號、同五年十月勅令第二百二十五號ヲ以テ改正アリ)

(大正十年五月勅令第二百三十八號ヲ以テ同年六月一日ヨリ本令ヲ廢止ス)

○明治三十九年九月勅令第二百六十六號ヲ以テ關稅定率法ノ規定ニ依リ輸入稅ノ拂戾ヲ爲スヘキ肥料製造用ニ供スル輸入原料品及之ニ對スル拂戾金ノ率ヲ定メ且拂戾金下付ノ手續ヲ規定ス(明治四十年四月勅令第百五十九號、同四十四年七月勅令第百九十八號、大正三年五月勅令第四十三號、大正四年十一月勅令第二百九號、同五年四月勅令第百十一號ヲ以テ改正アリ)

(大正十年五月勅令第二百三十八號ヲ以テ同年六月一日ヨリ本令ヲ廢止ス)

○明治四十年三月法律第二十九號ヲ以テ關稅定率法中一部ヲ改正ス

○明治四十一年二月法律第四號ヲ以テ關稅定率法中一部ヲ改正シ同年九月一日ヨリ施行ス

○同年同月法律第五號ヲ以テ關稅定率法別表輸入稅表中ヲ改正シ日本大博覽會出品貨物ニ對スル關稅ヲ免除ス

○明治四十一年三月法律第三十四號及同四十二年三月法律第四十一號ヲ以テ關稅定率法別表輸入稅表中ヲ改正ス

○明治四十三年四月法律第五十四號ヲ以テ關稅定率法ヲ改正シ同年七月勅令第三百十三號ヲ以テ同四十四年七月十七日ヨリ施行ス

○明治四十三年八月勅令第三百三十一號ヲ以テ朝鮮ヨリ內地、臺灣及樺太ニ移入スル貨物ニ輸入稅ト同率ノ移入稅ヲ課ス

○明治四十五年三月法律第八號及同第九號ヲ以テ關稅定率法別表輸入稅表中稅率ヲ改正ス

○大正二年四月法律第十七號ヲ以テ朝鮮ニ產出スル米及籾ニ對スル移入稅ヲ廢止シ同年七月一日ヨリ施行ス

○明治四十五年五月公布(英國)、同年七月公布(獨國)、同四十五年二月公布(佛國)、大正二年六月公布(伊國)ノ條約ヲ以テ特殊ノ協定稅率ヲ設ケ同四十四年七月十七日(英、獨)同四十五年二月二十九日(佛)、大正二年六月十八日(伊)ヨリ夫々實施セリ

○大正三年三月法律第三十六號ヲ以テ關稅定率法別表輸入稅表中ニ改正ヲ加ヘ同年四月十五日ヨリ施行ス

○大正三年九月法律第四十三號ヲ以テ輸入稅率等ノ特例ニ關スル件ヲ定ム卽チ下ノ如シ

(1) 輸入貨物ニシテ大正四年三月末日迄ニ輸入申告ヲ爲スモノニ對シテハ大正三年八月二十二日ニ輸入申告ヲ爲シタル場合ニ於テ適用スル稅率ト同一ノ稅率ニ依ル輸入稅ヲ課ス

(2) 輸入稅ヲ免セラルル物品ニシテ大正四年七月三十日迄ニ再輸出ノ期限到來スルモノニ付テハ其ノ期限ハ大正四年七月末日トス

○大正五年三月法律第九號ヲ以テ關稅定率法中及別表輸入稅表中ニ改正ヲ加ヘ同年四月勅令第百九號ヲ以テ同五年四月十五日ヨリ施行ス

○大正五年三月法律第二十六號ヲ以テ朝鮮ノ生蠶ニ係ル生果及種子ニ從價三割ノ移入稅ヲ課シ金屬ノ塊及錠ニハ移入稅ヲ課セストス定メ同年四月勅令第百九號ヲ以テ同五年四月十五日ヨリ施行ス

○大正七年十月勅令第三百七十三號ヲ以テ米及籾ノ輸入稅低減又ハ免除ノ件ヲ定メ同月三十日ヨリ施行ス(同年十一月勅令第三百七十四號ヲ以テ大正八年十月三十一日迄免除スヲ大正八年十月勅令第四百四十三號ヲ以テ大正九年十月三十一日迄免除スニ改ム)

○大正八年三月法律第二十八號ヲ以テ當分ノ內期間ヲ指定シ、大麥、小麥及小麥粉ノ輸入稅ヲ低減又ハ免除ノ件ヲ定メ三月二十七日ヨリ施行ス(同月勅令第三十八號ヲ以テ大正八年十月三十一日迄大麥、小麥ノ輸入稅ヲ免除シ小麥粉ノ輸入稅ヲ低減スヲ大正八年十月勅令第四百五十四號ヲ以テ大正九年十月三十一日迄免除スニ改ム)

○大正八年十一月勅令第四百七十八號ヲ以テ當分ノ內期限ヲ指定シ大豆、生牛肉、鳥卵、綿絲及綿織物ノ輸入稅低減又ハ免除ノ件ヲ定メ同月二十八日ヨリ施行ス(同年同月勅令第四百七十九號ヲ以テ期間ヲ大正九年十一月三十日迄ト定ム)

○大正九年三月勅令第五十二號ヲ以テ大正八年勅令第四百七十八號ト同一ノ件ヲ定メ其ノ失效ノ日ヨリ施行ス(同年同月勅令第五十三號ヲ以テ大正九年十一月三十日迄免除スヲ大正十年十一月勅令第四百八十八號ヲ以テ大正九年勅令第五十三號ヲ大正十一年十一月三十日迄免除スニ改ム大正十一年十一月勅令第四百九十三號ヲ以テ大正九年勅令第五十三號ヲ大正十二年十一月三十日迄免除スニ改ム)

○大正九年七月法律第四號ヲ以テ關稅定率法中及別表輸入稅表中ニ改正ヲ加ヘ同年八月一日ヨリ施行ス

○大正九年八月法律第五十號ヲ以テ朝鮮ヨリ移出スル貨物ニ對スル移入稅ニ關スル明治三十四年勅令第三百三十一號、大正二年法律第十七號同五年法律第二十六號及同七年法律第三十七號ヲ廢止ス

○大正九年十一月勅令第五百五十五號ヲ以テ大正九年勅令第五十三號中輸入稅免除ノ種目ヲ生牛肉及鳥卵ニ改メ大正十年十一月三十日迄免除ス

○大正十年四月法律第七十八號ヲ以テ關稅定率法中及別表輸入稅表中曹達、亞鉛、其ノ他三種ニ改正ヲ加ヘ同年六月勅令第二百八十二號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行ス

○大正十年五月勅令第二百三十八號ヲ以テ關稅定率法ノ規定ニ依リ製造品並輸入原料品及之ニ對スル輸入稅ノ免除又ハ拂戾ノ定率並ニ之レカ免除拂戾ニ關スル手續ヲ定メ同年六月一日ヨリ之ヲ施行ス(明治三十九年勅令第二百六十五號及同年勅令第二百六十六號ヲ廢止ス)但シ本令施行前輸入シタル原料品ヲ用キテ明治三十九年勅令第二百六十五號第一條ノ製造品ヲ製造シ大正十一年五月三十一日迄ニ輸出シタルモノニハ仍ホ同令ニ依リ輸入稅ノ拂戾ヲ爲ス(本令施行前輸入シタル原料品ヲ用キテ肥料ヲ製造シタル者ニ對シテハ仍ホ舊令ニ依リ輸入稅ノ拂戾ヲ爲ス)

○大正十年五月勅令第二百三十九號ヲ以テ關稅定率法ノ規定ニ依リ輸入稅ヲ免除スル物品ヲ指定シ同年六月一日ヨリ施行ス

○大正十年十一月勅令第四百四十七號ヲ以テ米及籾ノ輸入稅ハ大正十一年十月三十一日迄免除ス

○大正十一年三月法律第二十二號ヲ以テ關稅定率法別表輸入稅表中銅圓鎔及青銅ノ輸入稅ニ改正ヲ加ヘ公布ノ日ヨリ施行ス

○大正十一年三月勅令第七十七號ヲ以テ大正十年勅令第二百三十八號中第二種ニ九十ノ二號ヲ追加改正シ公布ノ日ヨリ施行ス

○大正十三年七月法律第二十四號(贅澤品等ノ輸入稅ニ關スル法律)ヲ以テ關稅定率法別表輸入稅表ニ揭クル物品中其ノ物品ヲ指定シ其ノ物品ニ付テハ當分ノ內同輸入稅表ニ依ラス從價十割ノ輸入稅ヲ課シ公布ノ日(大正十三年七月三十日)ヨリ施行ス

○大正十四年四月法律第四十一號ヲ以テ贅澤品輸入關稅ノ法律中改正シ公布ノ日(大正十四年四月一日)ヨリ施行ス

○大正十四年六月法律第五十一號ヲ以テ關稅定率法別表輸入稅表ニ揭クル物品中ニシテ關東州ノ生產ニ係ル生果外諸物品ノ輸入稅ヲ免除スルコトニシ公布ノ日(大正十四年六月十八日)ヨリ施行ス

○大正十四年三月法律第二號ヲ以テ日英通商航海條約ニ依ル日英協定稅率ノ失效ニ伴ヒ該所定品目ノ一部ニ付別段ノ輸入稅率ヲ定ムルノ必要アリ關稅定率法別表輸入稅表中鐵板ノ輸入稅ハ當分ノ內別ニ稅率ヲ定メ公布ノ日(大正十四年四月二十七日)ヨリ施行ス

○昭和二年三月法律第八號ヲ以テ關稅定率法別表輸入稅表中「タピオカ」等ノ澱粉類及「バター」等ノ稅率ヲ改正シ公布ノ日(昭和二年三月二十九日)ヨリ施行ス

○昭和二年四月法律第四十二號ヲ以テ關稅定率法別表輸入稅表中砂糖及酸化コバルトノ稅率ヲ改正シ公布ノ日(昭和二年四月一日)ヨリ施行ス

○昭和二年四月法律第四十三號ヲ以テ大正十四年法律第五十一號中ヲ改正シ公布ノ日(昭和二年四月一日)ヨリ施行ス

○昭和二年四月勅令第五十九號ヲ以テ大正十五年五月勅令第二百三十八號關稅定率法第九條ニ依ル命令中改正シ公布ノ日ヨリ施行ス

噸稅

(明治三十八年八月法律第八十八號噸稅法)

登簿噸數一噸又ハ積量十石ニ付……金 五 錢

但シ登簿噸數一噸又ハ積量十石ニ付金十五錢ヲ一時ニ納付スルトキハ其ノ港ニ於テ滿一箇年間噸稅ヲ納ムルヲ要セス

○納　期……開港ノ都度入港ヘ

○明治三十二年三月法律第八十八號ヲ以テ本法ヲ制定シ同年六月勅令第三百十八號ヲ以テ同年八月四日ヨリ施行ス

○明治四十三年八月勅令第三百三十一號ヲ以テ朝鮮ヨリ入港スル船舶ニ對シ噸稅ヲ課ス

○大正九年八月法律第五十號ヲ以テ明治四十三年八月勅令第三百三十一號(朝鮮ヨリ入港スル船舶ニ噸稅課稅)ヲ廢止ス

震災被害者ノ租稅減免

○明治二十五年六月法律第一號ヲ以テ明治二十四年十月二十八日三重縣愛知縣滋賀縣岐阜縣福井縣ノ震災地方租稅特別處分法ヲ制定シ震災被害地ニ對シ地租徵收方ニ關スル特別ノ處分方ヲ定メ地價修正低價年期附與地租延納年賦金免除及地租延納ヲ許可ス

○明治二十八年四月法律第二十九號ヲ以テ明治二十七年十二月二十二日山形縣ノ震災ニ對シ租稅特別處分法ヲ制定シ地價修正低價年期附與未納金延納ヲ許可ス

○明治三十八年三月法律第二十二號ヲ以テ明治二十九年八月三十一日秋田縣岩手縣ノ震災ニ對シ租稅特別處分法ヲ制定シ地價修正低價年期附與未納金延納ヲ許可ス

○大正十二年九月勅令第四百十號ヲ以テ關東地方大震災被害者ニ對スル租稅減免等ニ關スル緊急勅令ヲ制定シ公布ノ日ヨリ施行ス

其ノ條文次ノ如シ

第一條　政府ハ震災被害者ノ納付スヘキ大正十二年分ノ第三種所得稅及營業稅ニ付各納稅者ノ被害ノ狀況ニ應シ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ免除又ハ輕減スルコトヲ得

第二條　政府ハ震災地ニ於テ大正十二年度ニ納付スヘキ左ノ租稅ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

1. 地　租

2. 所得稅
3. 營業稅
4. 相續稅

第三條　第一條ノ震災被害者及前條ノ震災地ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

○大正十二年九月勅令第四百三十三號ヲ以テ勅令第四百十號震災被害者ニ對スル租稅減免等ニ關スル施行勅令ヲ制定シ公布ノ日ヨリ施行ス

其ノ條文次ノ如シ

第一條　大正十二年勅令第四百十號第三條ノ規定ニ依リ震災地及震災被害者ヲ左ノ如ク定ム

1. 震災地

東京府(西多摩郡及小笠原島ヲ除ク)
神奈川縣
埼玉縣(秩父郡兒玉郡及大里郡ヲ除ク)
千葉縣　千葉市、千葉郡、市原郡、東葛飾郡、君津郡、安房郡
山梨縣　中巨摩郡花輪村、東八代郡富士見村、南巨摩郡鰍澤町、南都留郡明見村、中野村、忍野村
靜岡縣　沼津市、田方郡、駿東郡、賀茂郡

2. 震災被害者

大正十二年九月一日ノ震災(之ニ伴フ火災又ハ海嘯ヲ含ム以下同シ)ニ依リ損害ヲ受ケタル者

第二條　震災被害者中政府ノ決定シタル所得金額一萬圓以下(同居ノ戶主又ハ家族ノ分トノ合算額ニ依ル)ノ者ニシテ自己(同居ノ戶主又ハ家族ヲ含ム)ノ所有ニ係ル其ノ住宅又ハ家財ノ過半カ震災ニ因リ滅失シ又ハ其ノ用ヲ爲ササルニ至リタルモノニ付テハ大正十二年分第三種ノ所得ニ對スル所得稅ヲ免除ス

第三條　震災被害者ニシテ前條ニ該當セサルモノノ大正十二年分第三種ノ所得ニ付テハ政府ノ決定シタル所得金額中ヨリ左ノ金額ヲ控除シ其ノ殘所得金額ニ付所得稅法第二十三條ノ規定ヲ適用ス

1. 所得稅法第十四條第一項第六號ノ所得ノ基因タル自己所有ノ家屋其ノ他ノ建築物、船舶、機械、器具、商品、原料品等カ震災ニ因リ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ損害見積金額
2. 自己(同居ノ戶主又ハ家族ヲ含ム)ノ所有ニ係ル其ノ住宅又ハ家財カ震災ニ因リ滅失又ハ毀損シタルトキハ左ノ金額

甲　住宅又ハ家財ノ過半カ滅失シ又ハ其ノ用ヲ爲ササルニ至リタルトキ
所得金額中一萬圓以下ノ金額(同居ノ戶主又ハ家族ノ分トノ合算額ニ依ル以下同シ)ノ全部
同　一萬圓ヲ超エ二萬圓以下ノ金額ノ八割
同　二萬圓ヲ超エ五萬圓以下ノ金額ノ六割
同　五萬圓ヲ超エ十萬圓以下ノ金額ノ四割
同　十萬圓ヲ超ユル金額ノ二割

乙　住宅又ハ家財ノ損害甲ノ程度ニ達セサルモ其ノ損害著シキトキ

所得金額中一萬圓以下ノ金額(同居ノ戸主又ハ家族ノ分トノ合算額ニ依ル以下同シ)ノ五割

同　一萬圓ヲ超エ二萬圓以下ノ金額ノ三割

同　二萬圓ヲ超エ五萬圓以下ノ金額ノ二割

同　五萬圓ヲ超ユル金額ノ一割

丙　住宅又ハ家財ノ損害乙ノ程度ニ達セサルトキ

所得金額中一萬圓以下ノ金額(同居ノ戸主又ハ家族ノ分トノ合算額ニ依ル以下同シ)ノ二割

同　一萬圓ヲ超エ五萬圓以下ノ金額ノ一割

3. 第一號又ハ前號ノ規定ノ適用ヲ受クル者所得稅法第十四條第一項第一號又ハ第六號ノ所得ニ付震災ノ影響ニ依リ收入ノ全部又ハ大部分ヲ得ルコト能ハサルニ至リタルトキハ當該所得ノ三分ノ一ニ相當スル金額

前項第二號ノ場合ニ於テ同居者一人毎ノ控除金額ハ各其ノ所得金額ニ按分シテ之ヲ計算ス

震災被害者カ所得ノ基因タル自己所有ノ家屋ニ住居スル場合ニ於テハ其ノ選擇ニ依リ第一項第一號又ハ第二號ノ規定ヲ適用ス

同一人ニシテ山林所得ト山林以外ノ所得トヲ有スル場合ニ於テハ前三項ノ規定ニ依ル控除ハ先ツ山林以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ山林ノ所得ニ及フ

第四條　所得稅法第六十四條第一項ノ請求ヲ爲ス者ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セス

第五條　第三條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シ殘所得金額八百圓ニ滿タサルトキハ所得稅ヲ免除ス

所得稅法第二十條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條　震災ニ因リ所得稅法第二十六條第一項ノ規定ニ依リ決定シタル大正十二年分第三種ノ所得金額ノ不明ト爲リタルモノニ付テハ政府ハ所得調査委員會ニ諮問シテ其ノ所得金額ヲ確定スヘシ

第七條　震災被害者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノノ大正十二年分營業稅第二期分ハ之ヲ免除ス

1. 營業ノ用ニ供スル家屋、其ノ他ノ築造物、船舶、機械、器具等ノ全部又ハ大部分カ震災ニ因リ滅失シ又ハ其ノ用ヲ爲ササルニ至リタルトキ

2. 商品及原料品ノ全部又ハ大部分カ震災ニ依リ滅失シ又ハ其ノ用ヲ爲ササルニ至リタルトキ

前項ノ規定ハ各營業場毎ニ之ヲ適用ス但シ營業稅法第十五條第二項ノ規定ニ依リ合算シテ營業稅ヲ課シタルモノニ付テハ各營業場ヲ通シテ之ヲ適用ス

第八條　前條ノ規定ニ依リ營業稅ノ免除ヲ受ケタル者ニ付テハ第一期分ニ相當スル稅額ヲ以テ營業稅法第二十九條ノ其ノ年分營業稅額ト看做ス

第九條　震災被害者ノ大正十二年分營業稅ニ付營業稅法第二十九條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ營業ノ用ニ供スル自己所有ノ家屋、其ノ他ノ築造物、船舶、機械、器具等カ震災ニ因リ滅失又ハ毀損シタル損害ノ見積金額ヲ營業稅法施行規則第五十五條ノ經費ト看做ス

第十條　震災ニ因リ營業稅法第二十六條第一項ノ規定ニ依リ決定シタル大正十二年分營業稅課稅標準ノ不明ト爲リタルモノニ付テハ政府ハ營業稅調査委員會ニ諮問シテ其ノ課稅標準ヲ確定スヘシ

第十一條　第二條、第三條又ハ第七條ノ規定ニ依リ所得稅又ハ營業稅ノ免除又ハ輕減ヲ受ケムトスル者ハ被害ノ狀況及損害見積金額ヲ記載シタル申請書ヲ大正十三年一月三十一日迄ニ所轄稅務署ニ提出スヘシ

震災當時ニ於テ納稅地カ震災地ニ在リタル納稅者ニシテ被害ノ事實顯著ナルモノニ付テハ前項ノ申請ナキ場合ト雖モ政府ノ認ムル所ニ依リ所得稅又ハ營業稅ノ免除又ハ輕減ヲ爲スコトヲ得

第十二條　政府ハ第三條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタルトキハ其ノ殘所得金額ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十三條　本令ニ依ル所得稅又ハ營業稅ノ免除又ハ輕減ニ關スル處分ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第十四條　震災地ニ於テ納付スヘキ地租、所得稅(第二種所得稅ヲ除ク)營業稅及相續稅ニシテ納付未濟ニ係ルモノ及大正十二年三月三十一日迄ニ納期限ノ到來スルモノニ付テハ其ノ徵收ヲ猶豫シ大正十二年十一月一日以後ニ於テ大藏大臣其ノ納期限ヲ定ム

震災地ニ於テ納付スヘキ地租、所得稅(第二種所得稅ヲ除ク)營業稅及相續稅ニシテ大正十二年十一月一日以後ニ納期限ノ到來スルモノニ付テハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫ス

○大正十二年十月大藏省令第二十六號ヲ以テ大正十二年勅令第四百三十三號第十四條ノ規定ニ依リ震災地ニ於テ大正十二年度ニ納付スヘキ地租、所得稅、營業稅及相續稅ノ徵收猶豫方ヲ定メ公布ノ日ヨリ施行ス

其ノ條文次ノ如シ

第一條　大正十二年勅令第四百三十三號第十四條第一項ノ規定ニ依リ徵收ヲ猶豫シタル租稅ノ納期限ハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外大正十二年分ノ第三種所得稅第一期分ニ在リテハ大正十三年五月三十一日限其ノ他ノ租稅ニ在リテハ大正十二年十二月二十日限トス

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル土地ノ大正十二年分地租ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫シ大正十三年六月一日ヨリ同年十二月十五日迄ノ間ニ於テ稅務署長ノ適當ト認ムル時期ニ之ヲ徵收ス但シ第三號ノ宅地ノ地租ニ付テハ納稅義務者ノ申請ナキ場合ニ於テモ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

1. 震災ニ因リ自己ノ住宅ノ過半カ滅失シ又ハ其ノ用ヲ爲ササルニ至リタル者ノ所有スル土地

2. 荒地又ハ收穫皆無地トナラサルモ震災ニ因リ著シク收穫ノ減損スルニ至リタル田畑

3. 震災ニ因ル被害激甚ニシテ別ニ指定スル市區町村内ノ宅地

第三條　震災ニ依リ地租名寄帳ノ滅失シタル市區町村ノ大正十二年分地租ニ付テハ地租名寄帳改調後一年以内ニ於テ稅務署長ノ適當ト認ムル時期ニ之ヲ徵收ス

第四條　大正十二年分第三種ノ所得ニ對スル所得稅ノ徵收猶豫ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

1. 震災被害者ノ所得稅ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫シ大正十三年五月一日ヨリ大正十四年二月二十八日迄ノ間ニ於テ稅務署長ノ適當ト認ムル時期ニ之ヲ徵收ス但シ被害ノ事實顯著ニシテ所得稅ノ減免ヲ受クヘキコト明カナルモノニ付テ

務者ノ申請ナキ場合ニ於テモ之ヲ猶豫スルコトヲ得

2. 震災ニ因リ所得金額ノ不明トナリタルモノニ付テハ大正十三年十月一日ヨリ大正十四年七月三十一日ノ間ニ於テ稅務署長ノ適當ト認ムル時期ニ之ヲ徵收ス

第五條　大正十二年分營業稅ノ徵收猶豫ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

1. 震災被害者ノ營業稅ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫シ大正十三年三月三十一日限之ヲ徵收ス但シ被害ノ事實顯著ニシテ營業稅ノ減免ヲ受クヘキコト明カナルモノニ付テハ納稅義務者ノ申請ナキ場合ニ於テモ之ヲ猶豫スルコトヲ得

2. 震災ニ依リ課稅標準ノ不明トナリタルモノニ付テハ大正十三年五月三十一日限之ヲ徵收ス

第六條　震災被害者ノ大正十二年度ニ於テ納付スヘキ左ノ租稅ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ被害ノ狀況ニ應シ五年以內ノ延納ヲ許可スルコトヲ得

大正十二年八月三十一日迄ニ終了シタル事業年度分ノ第一種所得稅

大正十二年八月三十一日迄ニ開始シタル相續ニ對スル相續稅(延納年賦金ノ大正十二年度分年割額ヲ含ム)

第七條　第二條、第四條乃至第六條ノ規定ニ依リ徵收猶豫ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ左ノ期限迄ニ所轄稅務署長ニ申請書ヲ提出スヘシ

1. 畑租、雜地租、第三種所得稅及營業稅ニ付テハ大正十二年十一月二十日限

2. 宅地租、第一期分竝大正十二年十月三十一日迄ニ納期限ノ到來シタル第一種所得稅及相續稅ニ付テハ大正十二年十一月三十日限

3. 田租ニ付テハ大正十二年十二月十五日限

4. 宅地租第二期分ニ付テハ大正十二年十二月二十八日限

5. 其ノ他ノ諸稅ニ付テハ納稅告知書ヲ受ケタル日ヨリ七日以內

市町村ニ於テ徵收スヘキ租稅ニ付テハ前項ノ申請書ハ納稅地ノ市區町村ヲ經由シテ之ヲ提出スヘシ

第八條　前條ノ申請書ニハ納稅義務者ノ住所又ハ居所、氏名、稅目、納期、區分及左ノ事項ヲ記載スヘシ

1. 地租ニ在リテハ大字、字、地番、地目、段別、地價及被害狀況但シ第二條第一項第一號ノ場合ニ於テハ各大字、地目每ノ筆數、段別及地價ノ合計ヲ記載スルヲ以テ足ル

2. 其ノ他ノ租稅ニ在リテハ其ノ課稅標準額、稅額、被害狀況及震災當時ニ於ケル納稅地

○大正十二年十二月大藏省告示第百五十五號ヲ以テ大正十二年大藏省令第二十六號第二條第三號ノ規定ニ依ル市區町村ヲ指定ス

其ノ告示文ノ如シ

大正十二年大藏省令第二十六號第二條第三號ノ規定ニ依リ左ノ市區町村ヲ指定ス

東京府	東京市	麴町區	神田區	日本橋區	京橋區
		芝　區	下谷區	淺草區	本所區
		深川區			
	荏原郡	羽田町			
	北豐島郡	南千住町	王子町	日暮里町	三河島町

		尾久町			
神奈川縣	橫濱市				
	橘樹郡	大師町	田島町	潮田町	保土ヶ谷町
	橫須賀市				
	三浦郡	浦賀町	逗子町		
	高座郡	藤澤町	茅ヶ崎町		
	鎌倉郡	川口村	腰越津村	戸塚町	鎌倉町
	中　郡	平塚町	大山町	秦野町	
	足柄上郡	松田町	川　村		
	足柄下郡	小田原町	足柄村	酒匂村	大　窪　村
		湯本村	温泉村	箱根町	元箱根村
		蘆湯村	早川村	眞鶴村	國府津村
		宮城野村	片浦村		
	愛甲郡	厚木町			
千葉縣	安房郡	北條町	那古町	船形町	館山町
靜岡縣	田方郡	熱海町	伊東町		
	駿東郡	御殿場町	小山町		

○大正十三年二月勅令第二十一號ヲ以テ震災被害者ノ營業稅課稅標準算定ノ特例及地租、第一種所得稅及相續稅ノ徵收猶豫方ヲ定メ公布ノ日ヨリ施行ス

其ノ條文次ノ如シ

第一條　營業稅ノ課稅標準ヲ前年ノ實績ニ依リ計算スヘキ場合ニ於テ大正十二年九月一日ノ震災(之ニ伴フ火災又ハ海嘯ヲ含ム)ニ因リ營業ノ狀況激變シ課稅標準中著シク減損スヘシト認メラルルモノアルトキハ大正十三年分營業稅ニ限リ豫算ヲ以テ其ノ課稅標準ヲ算定ス

前項ニ該當スル營業者ハ速ニ當該課稅標準ノ豫算ヲ政府ニ申告スヘシ

第二條　政府ハ大正十二年勅令第四百十號第二條ノ震災地ニ於テ大正十三年四月一日ヨリ同年八月三十一日迄ニ納付スヘキ左ノ租稅ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

1. 地　租
2. 第一種所得稅
3. 相續稅

○大正十三年三月大藏省令第五號ヲ以テ大正十三年勅令第二十一號第二條ノ規定ニ依リ震災地ニ於テ納付スヘキ地租、第一種所得稅及相續稅ノ徵收猶豫方ヲ定メ公布ノ日ヨリ施行ス

其ノ條文次ノ如シ

大正十三年勅令第二十一號第二條ノ規定ニ依リ震災地ニ於テ納付スヘキ地租、第一種所得稅及相續稅ノ徵收猶豫方左ノ通定ム

第一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル地租ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫シ大正十三年十二月一日ヨリ同月十五日限之ヲ徵收ス但シ第二號ノ地租ニ付テハ納稅義務者ノ申請ナキ場合ニ於テモ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

1. 荒地又ハ收穫皆無地トナラサルモ震災ニ因リ著シク收穫ノ減損スルニ至リタル田ノ大正十二年分田租第四期
2. 大正十二年大藏省令第二十六號第二條第三號ノ規定ニ依リ指定シタル市區町村內ノ宅地ノ大正十三年分宅地租第一期

第二條　震災ニ因リ地租名寄帳ノ滅失シタル市區町村ノ大正十二年第四期分田租及大正十三年第一期分宅地租ニ付テハ地租名寄帳改調後一年以內ニ於テ稅務署長ノ適當ト認ムル時期ニ之ヲ徵收ス

第三條　震災被害者ノ大正十三年四月一日ヨリ同年八月三十一日迄ニ納付スヘキ左ノ租稅(大正十二年勅令第四百十號第二條ノ規定ニ基キ徵收ヲ猶豫セラレタルモノヲ除ク)ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ被害ノ狀況ニ應シ五年以內ノ延納ヲ許可スルコトヲ得

1. 大正十二年八月三十一日迄ニ終了シタル事業年度分ノ第一種所得稅
2. 大正十二年八月三十一日迄ニ開始シタル相續ニ對スル相續稅(延納年賦金ノ年割額ヲ含ム)

第四條　第一條及第三條ノ規定ニ依リ徵收猶豫ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ左ノ期限迄ニ所轄稅務署長ニ申請書ヲ提出スヘシ

1. 田租ニ付テハ大正十三年四月十五日限
2. 宅地租ニ付テハ大正十三年六月十五日限
3. 第一種所得稅及相續稅ニ付テハ納稅告知書ヲ受ケタル日ヨリ七日以內田租及宅地租ニ付テハ前項ノ申請書ハ納稅地ノ市區町村ヲ經由シテ之ヲ提出スヘシ

第五條　前條ノ申請書ニハ納稅義務者ノ住所、氏名、稅目、被害狀況及左ノ事項ヲ記載スヘシ

1. 田租及宅地租ニ在リテハ大字、字、地番、地目、段別及地價
2. 第一種所得稅ニ在リテハ當該事業年度ノ期間及稅額
3. 相續稅ニ在リテハ相續開始ノ日、被相續人ノ氏名及稅額

○大正十三年七月法律第四號ヲ以テ震災被害地ノ地租免除法ヲ制定シ公布ノ日ヨリ施行ス其ノ條文次ノ如シ

第一條　大正十二年九月一日ノ震災(之ニ伴フ火災又ハ海嘯ヲ含ム)ニ因リ著シク利用ヲ妨ケラレタル土地ニシテ地租條例第二十條ノ規定ノ適用ナキモノニ付テハ其ノ實況ニ應シ命令ノ定ムル所ニ依リ大正十二年ヨリ五年以內其ノ地租ヲ免除スルコトヲ得但シ大正十二年宅地租第一期分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　政府ハ大正十二年勅令第四百十號第二條ノ震災地ニ於テ大正十三年九月一日以後ニ納付スヘキ左ノ租稅ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

1. 地　租
2. 第一種所得稅
3. 相續稅

○大正十三年八月大藏省令第二十號ヲ以テ大正十三年法律第四號施行方ヲ定メ公布ノ日ヨリ施行ス

其ノ條文次ノ如シ

第一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル土地ニ付テ納稅義務者ノ申請ニ依リ被害ノ實況ニ應シ宅地ニ在リテハ大正十二年ヨリ三年以內其ノ他ノ土地ニ在リテハ大正十二年ヨリ五年以內其ノ地租ヲ免除ス但シ大正十二年宅地租第一期分ニ付テハ此ノ限リニ在ラス

1. 水路若ハ溜池ノ破壞又ハ井戶ノ湧水涸渴等ニ因リ灌漑又ハ排水ノ便ヲ失シ收穫ヲ減損スルニ至リタル田畑
2. 地下ノ變動等ニ因リ水持ヲ害シ又ハ濕地トナリ收穫ヲ減損スルニ至リタル田畑
3. 建物ノ過半カ滅失又ハ倒壞シタル宅地
4. 地盤ノ變動又ハ交通ノ障碍等ニ因リ營業ノ狀況容易ニ回復シ難キ地方ノ宅地
5. 其ノ他震災ニ因リ著シク利用ヲ妨ケラレタル土地

第二條　前條ノ規定ニ依リ地租ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ大正十三年九月十五日迄ニ納稅義務者ノ住所、氏名、被害地ノ大字、字、地番、地目、段別、地價及被害ノ狀況ヲ記載シタル申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出スヘシ

第三條　左ノ市町村內ノ宅地ニシテ震災ニ因リ建物ノ過半カ燒失シタルモノニ付テハ前條ノ申請ナキ場合ニ於テモ其ノ地租ヲ免除スルコトヲ得

東京府　東京市
北豐島郡　南千住町　日暮里町　三河島町
神奈川縣　橫濱市
橫須賀市
鎌倉郡　腰越津村　鎌倉町
中　郡　秦野町
足柄下郡　小田原町　眞鶴村
愛甲郡　厚木町
千葉縣　安房郡　船形町

第四條　第二條ノ申請アリタル土地ニ付テハ被害調査中地租ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第五條　震災ニ因リ地租名寄帳ノ滅失シタル市區町村內ノ地租ニシテ地租名寄帳改調迄ニ納期ノ到來スルモノニ付テハ其改調後一年以內ニ於テ稅務署長ノ適當ト認ムル時期ニ之ヲ徵收ス

第六條　震災被害者ノ納付スヘキ左ノ租稅(大正十二年勅令第四百十號第二條又ハ大正十三年勅令第二十一號第二條ノ規定ニ基キ徵收ヲ猶豫セラレタルモノヲ除ク)ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ被害ノ實況ニ應シ五年以內ノ延納ヲ許可スルコトヲ得但シ大正十八年八月三十一日ヲ過クルコトヲ得ス

1. 大正十二年八月三十一日迄ニ終了シタル事業年度分ノ第一種所得稅
2. 大正十二年八月三十一日迄ニ開始シタル相續ニ對スル相續稅(延納年賦金ノ年割額ヲ含ム)

第七條　前條ノ規定ニ依リ徵收猶豫ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ納稅告知書ヲ受ケタル日ヨリ七日以內ニ納稅義務者ノ住所、氏名、稅目、被害ノ狀況及左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出スヘシ

1. 第一種所得稅ニ在リテハ當該事業年度ノ期間及稅額
2. 相續稅ニ在リテハ相續開始ノ日、被相續人ノ氏名及稅額

○昭和二年三月法律第十七號ヲ以テ北丹後地方ニ於ケル震災被害者ニ對スル租稅ノ免除猶豫等ニ關スル法律ヲ制定シ公布ノ日(昭和二年三月二十九日)ヨリ之ヲ施行ス

本法制定ノ理由及其ノ條文次ノ如シ

今回ノ北丹後地方ニ於ケル震災ハ先年ノ關東大震災ニ亜ク大災害ニシテ國稅納稅者ノ損害ヲ受クル者相當ノ數ニ上リ或ハ住宅家財ヲ失ヒ或ハ營業用ノ資產商品等ヲ灰燼ニ歸セシムル等非常ノ慘害ヲ來シ租稅ノ負擔力モ大ニ減損シタレハ之レカ救濟方法トシテ本法ヲ制定シタルモノナリ

第一條　政府ハ昭和二年三月七日ノ震災(之ニ伴フ火災ヲ含ム以下同シ)ニ因ル被害者ノ震災地方ニ於テ納付スヘキ大正十五年(昭和元年)分第三種所得稅第四期分ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ免除スルコトヲ得

第二條　政府ハ震災ニ依リ著シク利用ヲ妨ケラレタル土地ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ地租ヲ免除スルコトヲ得

第三條　政府ハ震災地方ニ於テ納付スヘキ昭和二年分ノ第三種所得稅、個人ノ營業收益稅及乙種資本利子稅ニ限リ課稅ニ關スル申告及申請竝課稅標準ノ決定ニ關シ命令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第四條　政府ハ震災地ニ於テ昭和二年三月七日以後ニ納付スヘキ租稅ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第五條　第一條、第三條及前條ノ震災地ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　第一條又ハ第二條ノ規定ニ依リ免除セラレタル租稅ハ法令上ノ納稅資格要件ニ關シテハ免除セラレサルモノト看做ス

前項ノ規定ハ前項ノ國稅ノ附加稅タル市町村震災稅ニ因リ免除セラルル直接府縣稅ノ附加稅タル市町村稅及其ノ他ノ直接市町村稅ニシテ震災ニ因リ免除セラレタルモノニ付之ヲ準用ス

第七條　土地賃貸價格調查委員會法第二十二條ノ二ノ期限ハ峯山稅務署所轄內ニ限リ之ヲ昭和二年十二月二十日トス

○昭和二年三月大藏省令第六號ヲ以テ昭和二年法律第十七號震災地被害者ニ對スル租稅ノ免除猶豫等ニ關スル施行方ヲ定メ公布ノ日(昭和二年三月三十一日)ヨリ之ヲ施行ス

其ノ條文次ノ如シ

第一條　昭和二年法律第十七號第五條ノ規定ニ依リ震災地ヲ左ノ如ク定ム

京都府　與謝郡　中郡　竹野郡　熊野郡

第二條　震災(昭和二年三月七日ノ震災及之ニ伴フ火災ヲ含ム以下同シ)ニ因リ自己(同居ノ戶主又ハ家族ヲ含ム)ノ所有ニ係ル其ノ住宅又ハ家財ニ付著シキ損害ヲ受ケタル者ノ震災地ニ於テ納付スヘキ大正十五年(昭和元年)分第三種所得稅第四期分之ヲ免除ス

前項ノ規定ニ依ル免除ヲ受ケムトスル者ハ被害ノ狀況ヲ記載シタル申請書ヲ昭和二年五月二十一日迄ニ所轄稅務署ニ提出スヘシ

被害ノ事實顯著ナル者ニ付テハ前項ノ申請ナキ場合ト雖モ稅務署長ハ其ノ認ムル所ニ依リ第一項ノ規定ニ依ル免除ヲ爲スコトヲ得

第三條　震災ニ因リ著シク利用ヲ妨ケラレタル土地(地租條例第二十條ノ規定ニ該當スル土地ニアリテハ昭和二年ヨリ五年以內其ノ他ノ土地ニアリテハ昭和二年ヨリ三年以內其ノ他ノ土地ニ在リテハ昭和二年ヨリ)ニシテ震災ノ狀況ニ應シ被害ノ實ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルモノニ付テハ左ノ(ク除)ニ掲ケル免ヲ地租ノ地

除ス

1. 水路若ハ溜池ノ破壞又ハ井戶ノ湧水涸渴等ニ因リ灌漑又ハ排水ノ便ヲ失シ收穫ヲ減損スルニ至リタル田畑
2. 地下ノ變動等ニ因リ水持ヲ害シ又ハ濕地ト爲リ收穫ヲ減損スルニ至リタル田畑
3. 建物ノ過半カ滅失又ハ倒壞シタル宅地
4. 地盤ノ變動又ハ交通ノ障碍ニ因リ營業ノ狀況容易ニ回復シ難キ地方ノ宅地
5. 其ノ他震災ニ因リ著シク利用ヲ妨ケラレタル土地

前項ノ規定ニ依ル免除ヲ受ケムトスル者ハ土地ノ番號、地目、段別、地價及被害ノ狀況ヲ記載シタル申請書ヲ昭和二年六月三十日迄ニ納稅地ノ町村ヲ經由シテ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第四條　震災ニ因リ地租條例第二十條又ハ前條ノ規定ノ適用ヲ受クル田ニ付テハ大正十五年(昭和元年)分地租第三期分ヨリ其ノ地租ヲ徵收セス

第五條　震災ニ因リ所得額著シク減損スヘシト認メラルル者ノ震災地ニ於テ納付スヘキ昭和二年分第三種所得稅ニ付テハ所得稅法第十四條第一項第六號ノ所得ハ豫算ヲ以テ之ヲ算定ス

第六條　自己(同居ノ戶主又ハ家族ヲ含ム)ノ所有ニ係ル其ノ住宅、家財、所得基因タル家屋其ノ他ノ築造物、船舶、機械、器具等カ震災ニ因リ滅失又ハ毀損シタル損害ノ見積金額ハ震災地ニ於テ納付スヘキ昭和二年分第三種所得稅ノ所得金額(同居ノ戶主又ハ家族ノ分トノ合算額)ヨリ之ヲ控除ス

前項ノ場合ニ於テ同居者一人每ノ控除額ハ各其ノ所得金額ニ案分シテ之ヲ計算ス

同一人ニシテ山林所得ト山林以外ノ所得トヲ有スル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ依ル控除ハ先ツ山林以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足スルトキハ山林ノ所得ニ及フ

第七條　震災ニ因リ營業ノ純益著シク減損スシヘト認メラルル者ノ震災地ニ於テ納付スヘキ昭和二年分個人ノ營業收益稅ノ純益金額ハ豫算ヲ以テ之ヲ算定ス

第八條　營業用ニ供スル自己所有ノ家屋其ノ他ノ築造物、船舶、機械、器具等カ震災ニ因リ滅失又ハ毀損シタル損害ノ見積金額ハ震災地ニ於テ納付スヘキ昭和二年分個人ノ營業收益稅ノ純益金額ヨリ之ヲ控除ス

第九條　第六條又ハ第八條ノ規定ノ適用ノ結果所得金額千二百圓(同居ノ戶主又ハ家族ノ分トノ合算額)ニ滿タサルニ至リタル者又ハ純益金額四百圓ニ滿タサルニ至リタル者ニハ所得稅又ハ營業收益稅ヲ課セス

第十條　震災地ニ於テ納付スヘキ昭和二年分乙種資本利子稅ニ付テハ資本利子金額カ第六條ノ規定ノ適用ノ結果ニ依ル山林所得以外ノ所得額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ資本利子金額ヨリ之ヲ控除ス

第十一條　震災地ニ於テ納付スヘキ所得稅、地租、相續稅、酒造稅及織物消費稅ニ就テハ左ノ期限迄其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

1. 昭和二年三月六日迄ニ終了シタル事業年度分ノ第一種所得稅	昭和四年三月三十一日限
2. 大正十五年(昭和元年)分第三種所得稅第四期分	昭和二年十二月二十日限
3. 大正十五年(昭和元年)分田租第三期分	昭和二年八月三十一日限
4. 大正十五年(昭和元年)分田租第四期分	昭和二年十二月二十日限

5. 昭和二年三月六日迄ニ開始シタル相續ニ對スル相續稅(延納年賦金ノ年割額ヲ含ム)
昭和四年三月三十一日限
6. 大正十四酒造年度分酒造稅第四期分　昭和三年五月三十一日限
7. 昭和二年三月七日ニ織物消費稅法第五條ノ規定ニ依リ徵收ヲ猶豫セラレタル織物消費稅
昭和三年三月三十一日限

第十二條　震災ニ因リ地租名寄帳ノ滅失シタル市町村ノ地租ニシテ納付未濟ニ係ルモノ及地租名寄帳改調迄ニ納期限ノ到來スルモノニ付テハ其ノ改調後一年以內ニ於テ稅務署長ノ適當ト認ムル時期ニ之ヲ徵收ス

第十三條　第一種所得稅及相續稅ニ付第十一條ノ規定ニ依リ徵收猶豫ヲ受ケムトスル者ハ納稅告知書ヲ受ケタル日ヨリ十五日以內(本令施行前納稅告知書ヲ受ケタル者ニ在リテハ本令施行後十五日以內)ニ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ
前項ノ申請書ニハ稅目、被害ノ狀況及左ノ事項ヲ記載スヘシ
1. 第一種所得稅ニ在リテハ當該事業年度ノ期間及稅額
2. 相續稅ニ在リテハ相續開始ノ日、被相續人ノ氏名及稅額

第十四條　震災地ニ於テ納付スヘキ第三種所得稅、個人ノ營業收益稅及乙種資本利子稅ニ關シ昭和二年三月十五日迄ニ爲スヘキ申告及申請ニ付テハ其ノ提出期限ヲ宮津稅務署所轄內ニ在リテハ昭和二年四月三十日峰山稅務署所轄內ニ在リテハ昭和二年五月十五日トス
震災地ニ於テ納付スヘキ昭和二年分ノ第三種所得稅、個人ノ營業收益稅及乙種資本利子稅ニ關シ本令施行前ニ爲シタル申告及申請ニ付テハ其ノ提出期限ヲ左ノ通變更ス
第一種所得稅及相續稅ニ付テハ第十一條ノ規定ニ依リ徵收猶豫ヲ受ケタル場合ニ於テハ前項ノ期限迄ニ之カ更正ノ申告及申請ヲ爲スヘシ
第六條又ハ第八條ノ規定ニ依リ控除ヲ受ケヘキ損害見積金額ハ所得ノ申告又ハ純益ノ申告ニ之ヲ附記シテ申告スヘシ
第十五條　峰山稅務署所轄內所得調查委員會ニ付テハ所得稅法第五十一條ノ期限ヲ昭和二年三月六日十三日トス

……(終)……

昭和六年二月五日印刷

昭和六年二月十日發行

大藏省主稅局

印刷者　內閣印刷局

6. 6.15